



14.5  
131



始





14  
13

省管船局  
調查資料第一號

大正八年海運概況



145-131



本書ハ大正八年中ニ於ケル内外海運ノ概況ヲ摘録シタルモノナリ

尙本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫ルニ止リ公刊スル趣旨ニアラス

逓信省管船局

寄贈本

9.12.28  
寄贈





本書は大正八年海運概況の調査結果を基に、海運行政の資料として編纂されたものである。

大正八年海運概況正誤表

頁數	行數	誤	正
一一七	五	大正三年	大正二年
一二七	五	大正八年	大正七年
一二七	五	大正七年	大正八年
一三〇	二	五年來	五年末
一三〇	三	六年來	六年末
一三〇	四	七年來	七年末
一三〇	五	八年來	八年末
一三一	五	充當	充當
一三一	八	充當	充當
一三一	一五	二等	三等
一三二	二	甲板部	航海科
一三二	四	機關部	機關科

# 大正八年海運概況目次

第一章 世界海運ノ概況	一頁
第一節 總說	一
第二節 海運市況	二
第一、荷動狀況	二
第二、船腹ノ供給	二
第三、運賃、備船料並船價	三
第三節 世界造船狀況	三
第四節 海員ノ狀況	三
第五節 海上保險	三
第二章 本邦海運ノ概況	六
第一節 總說	六
第二節 主要航路ノ狀況	六



11

- 第一、貿易概況..... 六六
- 第二、歐洲航路..... 六六
- 第三、北米航路..... 六六
- 第四、南米航路..... 六六
- 第五、濠洲航路..... 六六
- 第六、印度航路..... 六六
- 第七、南洋航路..... 六六
- 第三節 外國船來航ノ狀況..... 一〇一
- 第四節 不定期船ノ狀況..... 一一一
- 第一、概況..... 一一一
- 第二、運賃備船料..... 一一四
- 第三、賣船狀況..... 一二九
- 第五節 本邦造船業ノ狀況附新造船々價..... 一三三
- 第六節 船員ノ狀況..... 一三〇
- 第七節 戰時海上保險ノ狀況..... 一三四

# 大正八年海運概況

## 第一章 世界海運ノ概況

### 第一節 總說

五箇年ニ亘ル世界大戰亂モ遂ニ大正八年六月二十八日獨逸ノ講和條約調印ヲ見ルニ及ンテ全ク終局ヲ告ケ  
 奇々世界ハ擧ケテ諸般平時產業ノ復舊時代ニ入レリ而シテ列國ハ戰後經營ノ第一策トシテ海運ノ復舊發展  
 一努力殊ニ米國ノ如キハ戰時ニ於ケル大造船計畫ヲ戰後ニ於テモ持續シ豫定ノ造船ニ勉メタル爲本年六月  
 一於ケル世界船舶總數ハ四千七百九十萬噸ニ達シ戰前ニ比シテ約二百五十萬噸ノ増加ヲ見ルニ至レリ然レ  
 一モ戰前五箇年間ニ於ケル世界ノ船舶ハ毎年平均百五十萬噸ノ増加率ヲ示セルヲ以テ戰爭ナカリシモノト  
 一セハ尙五百萬噸ノ加算ヲ見タリシナルヘキヲ以テ世界ノ船腹ハ尙同噸數丈不足ノ狀態ニアルモノト云ハサ  
 一ルヘカラス 之ニ加フルニ貿易系統ノ變更ニ基ク航路ノ延長同盟罷業ノ頻發勞働時間ノ短縮各地港灣ノ混  
 一雜船舶修繕工事ノ遲延燃料炭ノ不足等各種ノ原因相錯綜シテ船舶ノ利用率ハ二三割方ノ低下ヲ見ルニ至リ  
 一殊ニ世界船舶ノ三分ノ二ヲ占ムル英米兩國ニ於テ尙船舶管理繼續セラレ必需品ノ輸送、軍隊ノ歸還ニ全力  
 一ヲ注キタル結果依然自由船ノ缺乏ヲ告ケ一方歐洲各國共物資ノ缺乏甚シク輸出入制限緩和ニ伴ヒ輸入數量





激増セルヲ以テ船腹ノ窮乏尙其ノ緩和ヲ見ルニ至ラス從テ年初英米ノ運賃競争ニ稍ヤ氣勢ヲ挫カレタルモ爾來海運界ハ好況ヲ呈シ歐米各汽船會社ハ著々航路ノ復舊開設ニ努メ各方面共運賃強調ヲ告ケ七、八月英米兩國ノ一部運賃制限廢止ヲ見タルモ英國ノ依然復航運賃制限ヲ繼續シ其船腹ヲ擧ケテ穀物砂糖ノ積取ニ充テタル爲メ市場ヲ惡化スルニ至ラス一方食料品、木材、羊毛、石炭等ノ大量貨物ノ輸入ニ要スル船腹ノ需要益々旺ンニシテ市況強調ヲ持續セシカ晚秋ニ及ヒ英米採炭量減少ニ因ル燃料炭ノ不足ハ航行ノ敏活ヲ阻害シ爲替相場ノ變調ニ因ル貿易ノ不振ハ荷動キヲ緩漫ナラシメ從テ運賃漸落ノ步調ヲ辿リ市況不安定裡ニ大正八年ヲ送レリ。

## 第二節 海運市況

### 第一 荷動狀況

先ツ荷動ノ狀況ヲ見ルニ昨秋休戰條約成立以來各國ハ漸次ニ戰時非常措置タル輸出入禁止ヲ解除シ即(一)英國ニ於テハ五月以降或種ノ食料品及原料品ヲ除キ事實上全部ノ輸出制限廢止セラレ輸入ニ付テモ三月以降甚シク緩和セラレタルカ九月以後製造品ノ輸入制限ヲ廢止シ基礎薄弱ナル樞要工業ノミ其製品ノ輸入制限ヲ繼續シ(二)米國ニ於テハ二月初メ食料品全部ノ輸出制限ヲ撤廢シ五月銀ノ輸出ヲ解禁シ輸入ニ付テハ一月以降領事ノ證明手續ヲ緩和シ八月中旬以後錫、砂糖、小麥、小麥粉及特種化學製品ノ外特別許可ヲ要セスシテ自由ニ輸入シ得ルコトニ改メ(三)佛國ニテハ五月中旬從來ノ輸出禁止ヲ解除シ新ニ食料品、金

白金、鐵鑛、貨幣等二十五種ノ品目ニ對シテハ許可ヲ要スルコトトシタルカ更ニ七月中旬食料品、石炭、金屬類ノ輸出禁止ヲ布告シ輸入ニ付テモ五月以降原料ノ輸入禁止ヲ解キ七月中旬ヨリハ十二種ノ商品ノ外一切ノ輸入ヲ許可シ本邦貿易ニ關係アル殆ト全部ノ商品ノ輸入自由トナリ(四)伊太利ニテハ八月以降原則トシテ外國貨物ノ輸入ヲ自由トシ(五)和蘭ニテハ三月中旬ヨリ砂糖、煙草、護謨等ノ輸出制限ヲ廢止シ四月末以降一切ノ輸入制限ヲ撤廢シ(六)加奈陀ニテハ一月下旬以降特種食料品及金銀ノ外事實上全部ノ輸出入制限ヲ廢止シ(七)亞爾然丁ニテハ九月末以降金屬類砂糖ノ外一切ノ輸出制限ヲ解除シ此ノ如クシテ時期ニ幾分ノ遲速ハアリタルモ四五五月頃ニハ殆ト各國共輸出入禁止ヲ解除シ只食料品ニ付テノミ制限ヲ繼續シ以テ一方ニ於テハ物資ノ輸入ヲ促進シ他方ニ於テハ産業ノ回復ニ努メタリ然ルニ歐洲各國ノ産業ノ疲弊竝ニ物資ノ缺乏ハ豫想以上ニ甚シキノミナラス戰時工業ヲ平時工業ニ轉換スルコト容易ニ非ルヲ以テ回復極メテ遅々タリ加フルニ戰後ノ現象タル勞動紛議ノ續出ハ各種ノ事業界ヲ動搖セシメ殊ニ石炭並ニ鐵ノ產出額ノ減少ハ各種工業ノ復興ヲ阻碍シ各國ノ輸出入貿易ハ尙不振ノ域ヲ脱スルコト能ハス今英國政府ノ調査發表セル世界主要國ニ於ケル石炭及鋼鐵ノ產出額ヲ見ルニ戰争開始當時ニ比シ左ノ如ク共ニ二三割ノ減少ヲ示セリ

一九一三年	石		炭		鋼		鐵	
	每月平均產額	各年比較%	每月平均產額	各年比較%	每月平均產額	各年比較%	每月平均產額	各年比較%
	八七,七〇〇	100.0	四,五〇〇	100.0	四,五〇〇	100.0	四,五〇〇	100.0



一九一九年(四、五、六月分)	六九三七	七九四	三六七	八〇二
一九一九年(上半年)	七〇三六	八〇六	四二〇〇	九一六
一九一九年	八六、九〇三	九九六	四九四	一〇七四

各國ノ貿易狀況ニ付テ之ヲ觀ルニ英國ニ於テハ大正八年ハ前年ニ比シ輸出二億九千七百萬磅ヲ増加シ其内製造品ノ輸出増加二億二千萬磅ニ及ヘルモ戰前ニ比スルトキハ輸入ノ二倍セルニ對シ輸出ハ五割ノ増加ニ過キスシテ價格騰貴ノ平均二倍半ニ及ルヲ考慮ニ入ルトキハ未タ戰前ニ復セルモノト謂フヲ得ス其他白耳義ノ如キ比較的ニ回復速カナリト稱セラルル國ニ於テモ尙全般ノ産業ニ付テハ五割ノ回復ニ過キスト稱セラレ佛伊等モ物資ノ輸入額遙ニ輸出額ヲ超過シ失業者ノ數モ夥シキ狀態ニシテ徒ニ人心動搖シ回復ノ期尙遠タリ輸出此ノ如ク振ハサルニ反シ歐洲各國ノ物資缺乏ハ輸入禁止並消費制限ノ解除ニ促サレ著シク輸入増加ヲ招致シ各國ニ於ケル輸入ノ輸出ニ對スル割合ヲ見ルニ英國ノ本年中ノ輸入ハ輸出ノ二倍ヲ示シ佛國ハ五倍ニ達シ白耳義ハ二倍ヲ超ヘ伊太利ハ六月迄ニ於テ既ニ五倍ヲ算ヘ各國共巨額ノ輸入超過ヲ馴致スルニ至リ本年中ノ北米合衆國ノ對歐輸出ハ五十一億八千六百萬弗ノ巨額ニ達シ前年ニ比スルモ三割四分ヲ増加セリ此ノ如ク各國共ニ輸入額著シク増加シ而モ其大部分ヲ占ムルモノハ食料品、原料品等ノ大量貨物ナルヲ以テ價格騰貴ヲ考慮ニ入ルルモ尙數量ノ増加ヲ伴ヒタルカ如クナルモ英國ニ付テテ之ヲ見ルニ大正八年ノ輸入推定數量ハ三千九百萬噸ニシテ戰前ニ比シ二割八分ノ減少ヲ示シ前年ヨリ約一割ノ増

加ニ過キス勿論一割ノ増加ト雖モ約三百八十萬噸ヲ算スルヲ以テ歐洲各國ノ分ヲ總算スルトキハ巨額ニ達スヘシト雖モ船腹ノ需要ヲ激増セシメタル最大原因ハ寧ロ貿易系統ノ變更ニ基ク航路ノ延長ニアリト謂フヘシ即チ英國ニ於テハ九月迄ノ歐洲諸國ヨリノ輸入ハ戰前ニ於テハ全輸入ノ四割ヲ占メタルモ本年ハ一割四分ニ激減セルニ反シ北米ヨリノ輸入ハ一割七分ヨリ三割五分ニ倍加シ極東ヨリノ輸入又二分ヨリ四分ニ倍加シ英國屬領及自治領ヨリノ移入モ二割二分ヨリ三割ニ増加セルカ英國以外ノ歐洲諸國ニ付テモ同様ノ現象ヲ呈シタリ此ノ如キハ戰前露國ハ小麥約一千萬噸ヲ、獨逸ハ砂糖約三百萬噸ヲ供給セシカ今ヤ此カ補給ヲ兩米、濠洲、及東洋ニ求メ其他羊毛、材木、棉花、石炭及一般原料品ノ歐大陸以外ヨリノ輸入亦激増シタルカ大正八年ニ於テ殊ニ著シキ現象トシテハ北米ヨリノ食料品及石炭ノ輸送是ナリ、今年年中ノ小麥及麥粉ノ輸送量ヲ見ルニ左ノ如クニシテ歐洲向ノ小麥ハ前年ニ比シ約二倍ニ増加シ佛、伊、白、英、其大部分ヲ占ムルヲ見ルナリ、

米國食料品輸出額

小	一九一七年	一九一八年	一九一九年
麥	一〇六、一六三、三八	一一一、七七一、〇三	一四八、〇八六、四七〇
歐洲	九四、〇〇四、七	八四、二〇三、三六〇	一四四、九三三、四六



加 他 諸 國		歐 洲		小 麥 粉		加 他 諸 國	
一六九五、二天	六、〇四〇、七三五	一三、九六、二七	一〇、二八、五五四	八七、九九五	三、六九九、五七八	二六四九、三四二	四八〇、三三二
二六四九、三四二	四八〇、三三二	二二、七〇六、七〇〇	二〇、六六六、三五〇	六二、〇四五	九七、九四〇、五	一四二、六三三	一六七一、四三二
二二、四三、一〇〇	三、七〇、三〇〇	二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	三、七〇、三〇〇	二、四三、一〇〇	二六、四四九、五八二	二、四三、一〇〇
二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	二、四三、一〇〇	三、八三三、九八五	七、三二六

六

次ニ石炭ニ付テハ英國ノ産炭額戰前ニ比シ五六千萬噸ヲ減シタル結果其輸出量モ激減シ戰前ニ於テハ一年約七千七百萬噸ヲ輸出セルニ大正八年ニハ輸出約三千五百萬噸ニ減シ船舶用給炭千二百萬噸ヲ加フルモ三千萬噸ノ減少ヲ來シタルヲ以テ後ニ述フルカ如ク歐洲各國ハ石炭饑饉ヲ現出セントスルノ窮境ニ陥リ之カ補給ヲ米國炭ノ輸入ニ俟ツニ至リ米國石炭ノ輸送ハ左ノ如ク旺盛ヲ極メタリ

米國石炭輸出額

有 煙 炭		無 煙 炭		一 九 一 七 年		一 九 一 八 年		一 九 一 九 年	
(別 國)									
伊 太 利	五、〇六八	二、二八五、三三〇	五、三三三、六六六	九、九九四	一、九五六、〇〇九	四、四三三、五五三	一、七九六、五二四	一、六三三、九九五	四、四三三、三九二
加 奈 陀	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一	一、六二七、五七一
巴 奈 馬	六、八六二	六、八六二	六、八六二	五、〇四二、二九	五、〇四二、二九	五、〇四二、二九	七、二〇九、七	七、二〇九、七	七、二〇九、七
墨 西 哥	一、八四三、四五	一、八四三、四五	一、八四三、四五	一、六二、六三二	一、六二、六三二	一、六二、六三二	一〇、六六九、八九〇	一〇、六六九、八九〇	一〇、六六九、八九〇
玖 馬	一、四一〇、五九四	一、四一〇、五九四	一、四一〇、五九四	一、四四〇、四五七	一、四四〇、四五七	一、四四〇、四五七	九七、一三九九	九七、一三九九	九七、一三九九
其 他ノ西印度	四、〇二八、二	四、〇二八、二	四、〇二八、二	二、五四、五〇一	二、五四、五〇一	二、五四、五〇一	二、七四、五二	二、七四、五二	二、七四、五二
亞 爾 然 丁	三、七五三	三、七五三	三、七五三	一、七八、八九九	一、七八、八九九	一、七八、八九九	四、八三三、八九	四、八三三、八九	四、八三三、八九
伯 刺 西 爾	六、八五、一四二	六、八五、一四二	六、八五、一四二	五、五九〇、九九	五、五九〇、九九	五、五九〇、九九	六、四四、一〇九	六、四四、一〇九	六、四四、一〇九
智 利	六〇、一八八	六〇、一八八	六〇、一八八	三、〇〇、〇六二	三、〇〇、〇六二	三、〇〇、〇六二	九三、六一八	九三、六一八	九三、六一八
ウ ル ガ イ	八六、七五五	八六、七五五	八六、七五五	二、八、九九九	二、八、九九九	二、八、九九九	一、九四、九九七	一、九四、九九七	一、九四、九九七
其 他ノ諸國	八六、七五五	八六、七五五	八六、七五五	二、五九、一四	二、五九、一四	二、五九、一四	二、八三〇、八三〇	二、八三〇、八三〇	二、八三〇、八三〇

七



船用炭 (外國貿易船)

六八三、七五

五五三、二七五

八

七三〇、七〇四

右ニ依レハ伊太利ノ如キハ前年ハ一萬噸ノ米國炭ヲモ輸入セサリシニ今年ハ百六十萬噸ヲ超ユルニ至リ殊ニ英國鐵道「ストライキ」ノ後ヲ受ケタル十月ニ於テハ實ニ四十二萬噸ニ達シ南米向モ亦著シキ増加ヲ見「其他諸國」ニ包含セラルヘキ伊太利以外ノ歐大陸諸國向輸送モ前年ニハ十二三萬噸ナリシニ二百八十萬噸ヲ超ユルニ至リ從テ總輸出量ハ炭坑同盟罷業以前タル十月迄ニ於テモ却テ減少セルニ拘ラス近距離ノ巴奈馬、墨西哥、玖馬向カ五百萬噸ヲ減シ遠距離輸送ヲ要スル伊太利其他歐洲及南米向増加セルヲ以テ石炭船腹ノ需要ハ夥シク激増シタリ、此ノ如クシテ北米ヨリノ食料品輸送船ハ歐洲向ノミヲ以テスルモ五月二百六十四隻二百萬噸(重)ヲ算シ石炭輸送ニ向ケラレタルモノ亦十月ニ於テ約百隻ニ達シ更ニ濠洲、南阿積羊毛、南米積食料品、北米加奈陀積材木、北米積棉花及瓜哇玖馬積砂糖等ノ所要船腹ヲ加フレハ非常ナル巨額ニ達セリ

(1) 一九一九年小麥及ライ麥輸出入推定額

輸出シ得ル剩餘	輸入ヲ要スル不足
加奈陀 三二六,〇〇〇噸	佛蘭西 五七〇,〇〇〇噸
合衆國 九〇〇,〇〇〇	英國 二八〇,〇〇〇

(2) 世界砂糖產出額

甜菜		亞爾然丁及ウヅルガイ 濠洲及新西蘭 アルゼリー及チユニス ルマニア及ユーゴースラ ビヤ	
獨逸	二七六,〇〇〇噸	伊太利	二七〇,〇〇〇
伊太利	一七〇,〇〇〇	白耳義	二五〇,〇〇〇
佛蘭西	八〇〇,〇〇〇	チエツク國及埃、匈牙利	五五〇,〇〇〇
白耳義	二二〇,〇〇〇	獨逸	一,一〇〇,〇〇〇
和蘭	二二〇,〇〇〇	其他諸國	五〇五,〇〇〇
合計	二,〇二〇,〇〇〇	合計	二,〇一〇,〇〇〇

九



露西亞	175,000	350,000
合衆國	65,296	85,000
其他諸國	77,700	134,000
計	890,996	439,000

甘蔗 (一九一三年) (一九一九年)

玖馬	257,733	430,000
布哇	550,000	500,000
ボルネオ	350,000	400,000
合衆國	268,337	190,000
爪哇	1,345,130	1,300,000
マウリチウス	241,990	141,000
比律賓	250,000	100,000

伯刺西爾	100,000	175,000
亞爾然丁	249,231	250,000
臺灣	190,000	300,000
其他諸國	96,218	435,000
計	717,079	1,161,000
甜菜甘蔗總計	160,807	166,000

第二 船腹ノ供給

轉シテ船腹ノ供給ヲ見ルニ戰禍ニ因ル擊沈船絶滅セルニ反シ各國造船高ハ漸次回復セルヲ以テ本年六月ニ於ケル世界船舶總噸數ハ左ノ如ク四千七百八十九萬七千噸ニ達シ戰前ニ比シ約二百五十萬噸ノ増加ヲ示セ

戰前及現在ニ於ケル各國汽船總噸數比較表(「ロイド」レヂスターノ統計ニ依ル)

國別	一九一四年六月	一九一九年六月	總噸數	百分率
英國	1,889,000	1,635,000	2,547,000	13.5



英國屬領	北米合衆國	航洋船	大湖航行船	計	埃太利洪牙利	丁抹	佛蘭西	獨逸	希臘	和蘭	伊太利	日本	日
1,632,000	210,540,000	110,270,000	226,000,000	426,770,000	1,052,000,000	770,000,000	1,922,000,000	5,135,000,000	822,000,000	1,477,000,000	1,430,000,000	1,708,000,000	1,745,000,000
1,833,000 (+)	182,020,000 (-)	977,300,000 (+)	226,000,000 (-)	1,293,300,000 (+)	770,000,000 (-)	631,000,000 (-)	1,922,000,000 (+)	3,377,000,000 (-)	292,000,000 (-)	1,574,000,000 (+)	1,336,000,000 (-)	2,235,000,000 (+)	2,752,000,000 (+)
231,000 (+)	226,000,000 (-)	774,600,000 (+)	100,000,000 (-)	766,400,000 (+)	339,000,000 (-)	139,000,000 (-)	400,000,000 (+)	1,888,000,000 (-)	500,000,000 (-)	1,012,000,000 (+)	192,000,000 (-)	670,000,000 (+)	540,000,000 (+)
142	113	382	44	173	32	18	22	36	69	69	34	36	190

111

英國以外合計	總計	其他諸國	瑞典	西班牙	諾威
2,652,000	4,540,000	2,470,000	1,015,000	844,000	1,957,000
3,552,000 (+)	4,787,000 (+)	2,522,000 (+)	970,000 (-)	790,000 (-)	1,597,000 (-)
5,400,000 (+)	2,493,000 (+)	1,150,000 (+)	98,000 (-)	175,000 (-)	360,000 (-)
190	55	52	97	198	184

然レトモ戰前五箇年間ニ於テハ毎年平均百五十萬噸ノ増加ヲ見タルカ故ニ大正八年ハ戰前ニ比較シ七百五十萬噸ヲ増加スヘキ筈ナルヲ以テ之ヲ加算スルトキハ世界ノ船腹ハ尙五百萬噸不足ノ状態ニアルモノト謂フヘク米國側ノ調査ニ依レハ本年末ニ於テハ世界船舶ハ約五千三百萬噸ニ達セリトナスモ大正八年ニ於ケル船腹ハ四千七百九十萬噸ト見ルヲ當レリトス但シ前記表中ニハ獨逸船舶ヲ三百二十五萬噸ト計上シアルモ其内約百十六萬噸ハ既ニ開戰當時聯合國ニ抑留セラレ獨逸側ノ情報ニ依レハ本年秋季ニ於テ同國所有トシテ殘存セル商船ハ七十二萬五千噸ニ過キササル由ナリ而シテ戰時中ニ於テハ主トシテ貨物船建造セラレ運輸力ノ比較的小ナル旅客船ノ多數喪失ヲ見タルヲ以テ世界船舶ノ全輸送能力ハ噸數ノ示ス増加率以上ニ増進セルモノト見ルヲ得ヘキモ一方戰時中ノ新造船ハ急速ニ建造セラレタルモノ多キヲ以テ幾分能率ニ於テ劣



ル所アルハ一般ニ認メラル、ヲ以テ彼此相殺シテ大差無カルヘシ然ルニ船舶ノ利用率ハ次ニ列舉スルカ如キ諸原因ニ由リ著シク減退セリ

一、英米兩國ニ於ケル船舶管理ノ繼續

今ヤ米國ノ海運ハ長足ノ進歩ヲ遂ケタルヲ以テ英米兩國ノ船舶ヲ合算スルトキハ世界船舶ノ約三分ノ二ヲ占ムルニ至レルカ兩國共船舶管理ヲ容易ニ緩和セス米國ニ於テハ七月中旬ニ至リ漸ク備船及航海許可方ニ關スル一切ノ制限ヲ廢止セルモ船舶院ノ拂下政策未タ定ラスシテ僅ニ其一部ヲ民間ニ貸下ケテ運航セシムルノ狀況ナルノミナラス最近世界船腹ノ増加ハ主トシテ米國船舶ノ増加ナルニ拘ラス同國ニ於テハ國內ノ船舶讓渡ハ前年末以來一切自由トナリタルモ外國人ニ對スル讓渡ハ尙船舶院ノ許可ヲ要ストセラレ現ニ大正七年六月ヨリ大正八年七月一日迄ニ於テ許可セラレタルハ僅ニ二十六萬七千五百噸ニ過キス英國ニ於テモ八月以後往航(英國發)ニ限り運賃制限ヲ廢止シタルモ最モ荷況活潑ナル復航(英國向)ニ付テハ依然特許ヲ要スルヲ以テ英國船主ハ成ルヘク不許可ヲ免レンカ爲メ自國又ハ聯合國向貨物ノミヲ積載スル傾向ヲ生シ而モ其許可ヲ得ル迄ニハ長時日ヲ要スルコト多クシテ航行ノ敏速ハ甚シク阻碍セラレ此ノ如クシテ英米兩國ノ船舶管理持續ニ依リ船舶ノ利用率ハ大ニ減退シタリ佛國ニ於テモ亦一月六日徵發船解除ニ決シタルモ出帆免許狀ノ戰時法規ハ尙廢止セラルルニ至ラス

二、徵發船ノ未解徵及國有船舶ノ存續

米國ニ於テハ一月中旬既ニ徵發船ノ解徵ヲ宣明シ漸次實現セラレ軍用船モ順次陸海軍省ヨリ船舶院ニ移管

セラレ休戰當時ニ於テハ軍用船トシテ専用セラレタルモノ五百九十八隻四百二十七萬噸ナリシニ十一月末ニハ陸海軍省ノ所管ニ屬スルモノ二十七萬噸ニ減少セルモ歐洲大陸在留ノ米兵二百二十萬人ノ歸還ニハ數百萬噸ノ船腹ヲ要セルノミナラス船舶院ノ拂下政策未決延引ノ爲メ十一月末ニ於テ新造船有船千二百六十九隻六百五十六萬噸(重)徵發國有船二百六十七隻六百六十九萬噸(重)ニ達シ民間ニ拂下タルハ十一月末ニ於テ六十九隻三十八萬噸ニ過キス次ニ英國ニ於テハ三月以降特別ノ必要アルモノヲ除キ徵發船ヲ解除スルコトニ決セルモ十月末ニ於テ公定率ニテ徵用セルモノ百九隻四十八萬六千噸(總)ヲ算ヘ尙一年ヲ通シテ定期船舶ノ五六割ハ船舶省ノ徵用スル所トナリ其不足ハ不定期船ヲ以テ補ヒタルカ軍需品ノ輸送ノミナラス食料品、材木、羊毛等ノ政府貨物夥シキヲ以テ不定期船ノ八割ハ時々徵用セラレ英國商業會議所ノ調査ニ依ルモ八月迄ハ英國船ノ七割五分十月ハ二割五分ヲ徵用セラレタルモノノ如ク鐵道大罷業ノ際ニハ米國炭ノ輸送ニモ徵發船ヲ向ケタル實況ナルヲ以テ英國船ノ自由船腹ハ極メテ其數ニ乏シク其官有船モ七月迄ニ三回ニ亘リ百九十六隻百四十萬噸(總)ヲ拂下ケタルカ六月ニ於テ尙五百七十七隻二百二十五萬噸ニ達シ佛伊兩國亦一年ヲ通シ多數船舶ノ徵發ヲ見タルヲ以テ著シク自由船腹ノ不足ヲ馴致セリ、此結果本年ハ米國市場ニ於テ殆ト英國船ノ備船ヲ見サルニ至リ米國ニ於ケル外國船ノ備船數ハ戰前ニ比シ四分ノ一ニ激減セリ

三、修繕船ノ増加及修繕工事ノ遲延

戰時中ハ船舶ヲ極度ニ酷使セルヲ以テ修繕ヲ要スルモノ激増シ英國ノミニテモ一時百數十萬噸ノ修繕工事



行ハレ軍用船ノ改造工事亦少カラサルニ拘ラス勞働紛議ノ續出、作業時間ノ短縮ハ此等工事ノ進捗ヲ阻害シ平均戦前ニ比シ三倍ノ時日ヲ要スルニ至リ軍用船改造工事ノ如キ數箇月ニ亘ルヲ常トセルヲ以テ船舶ノ利用率ハ甚シク減退セラレタリ

四、勞働紛議並港灣及鐵道ノ輻輳ニ依ル荷役ノ遲延

戦後ノ現象トシテ最モ注意スヘキハ勞働紛議ノ頻發ニシテ大正六年ニ於テモ紐育、倫敦、馬耳塞、桑港、ブエノスアイレス等ノ主要港ノ各種人足相次テ同盟罷業ヲ行ヒ爲メニ甚シク荷役ノ遲延、碇泊日數ノ延長並ニ港灣埠頭ノ混雜ヲ來シ航行ノ敏速ヲ缺クニ至レルカ一旦罷業終熄シタル後モ勞働時間ノ短縮ヲ見タル場合多キヲ以テ荷役ノ遲延ハ一時的現象トノミ見ルヘカラサルニ至レリ、更ニ港灣埠頭ノ混雜ヲ甚シカラシメタルモノハ鐵道輸送力ノ減退及上屋、倉庫ノ不足ニシテ歐洲各國ヲ通シテ鐵道貨車ノ不足セルノミナラス石炭ノ缺乏ノ爲メ輸送能率著シク減少シ荷役ノ遲延ヲ大ナラシメタリ、尙英國ノミニ特別ナル原因ト見ルヘキハ(一)其輸入額ノ四五割ヲ占ムル小麦、肉、砂糖、羊毛、材木等ヲ政府ニ於テ管理セル結果一時ニ多大ノ入貨ヲ見ルノ傾向ヲ生シ又(二)戦前ニ於テハ大陸向貨物ノ積換港トシテ倫敦ハ漢堡及安土府ト對立セシカ戦争ノ打撃ヲ蒙レル漢、安南港ノ回復遲キ爲メ積換貨物ハ倫敦港ノミニ集中スルノ結果ヲ來シ共ニ其混雜ヲ大ナラシメタリ、萬國商船會社ノ調査ニ依レハ戦前英國港灣ニ於ケル定期貨物船ノ碇泊日數ハ約七日ナリシモ今ヤ平均三十八日ニ達シ從テ戦前ニ於テハ航海日數六割五分乃至七割五分ニ對シ碇泊日數三割五分乃

至二割五分ナリシカ本年ハ碇泊日數五割二分ニ増加シ却テ航海日數ヲ超過スルニ至リ又大西洋航路定期船ハ碇泊日數ハ平均八日半ナリシカ今ヤ十日ヨリ十四日ニ達シ「ホルダー」社ニ於テハ南米英國間ノ往復航海ニ從事スル冷蔵設備快走船戦前ニハ七十日ヲ要シタルモノ本年ハ九十九日ヲ要スルニ至レリ、此等荷役ノ遲延ニ基キ船舶ノ利用率幾何ノ減少ヲ見タルヤ全體ヲ通シ正確ナル數字ヲ知ルコトヲ得サルモ英米兩國當業者ノ意見ニ依レハ戦前ニ比シ二割乃至三割ヲ減シタリト謂フニ略一致スルヲ以テ此點ヨリ現在ノ世界船舶ハ多大ノ不足ヲ示スモノト謂フヘシ

其他貿易系統ノ變更ニ因ル航路ノ延長モ亦船舶ノ利用率減少ノ原因ト謂ヒ得ヘキモ寧ロ前述ノ如ク船腹需要ノ増加ト見ルヲ可トスヘシ更ニ大正八年中ニ於ケル船舶利用率減少ノ一時的原因ト爲レルハ九月末ノ英國鐵道罷業及十一月ノ米國炭坑「ストライキ」ニシテ一ハ荷役ノ遲延ヲ來シ他ハ給炭ノ困難ヲ伴ヒ共ニ航行ノ敏速ヲ甚シク阻害シ英國ハ年内ニ於テ其ノ創痍ヲ回復シ得スト稱セラレ米國ノ損失亦一億弗以上ニ達セリト謂フ、殊ニ英米石炭ノ產出額減退セル爲メ船用炭獲得ノ一般ニ困難トナレルコトモ亦船舶ノ能率ヲ減少セシメ現ニ英國船ニシテ往復航路ニ從事スルモノハ米國炭ノ割安ナル結果米國ニ於テ各船七百噸乃至二千噸ノ船用炭ノ積込ヲ爲シテ歸英スルノ傾向ヲ生シ船腹ノ不足ヲ大ナラシメツ、アリト謂フ、今之ヲ船舶運航ノ實況ニ就テ見ルニ英國諸港ニ貨物ヲ積載シテ入港セル船舶ハ戦前ニハ四千九百萬噸(純)ナリシニ大正八年ニハ約四割ヲ減シテ二千九百五十萬噸トナリ之ヲ其輸入貨物ノ數量カ五千四百萬噸(重)



ヨリ三千九百萬噸ニ二割八分ヲ減シタルニ比スレハ船腹ノ供給ハ絶對的ニモ亦相對的ニモ減少セルモノト見ルヘク次ニ安土府入港汽船數ヲ見ルニ一月ニハ八十一隻十六萬噸ナリシニ五月三百九十九隻四十九萬噸ニ十一月三百九十八隻五十五萬噸ニ漸増シタルモ全體ヲ通シ戰前ノ半數ニ過キサレト亦船腹不足ノ事實ヲ語ルモノト謂フヘク更ニ馬耳塞港ニ出入セル船舶ヲ見ルニ前年ノ八千七百隻ニ比シ本年ハ一萬隻ヲ超過シタルモ積荷噸數ハサシテ増加ヲ見ルニ至ラス況ヤ戰前(一九一三年)ノ一萬七千隻ニ比スレハ尙回復ノ程度遠シト謂フヘシ尙米國ヨリ出帆セル貿易從事船舶ヲ見ルニ左ノ如クニシテ大正八年ハ前年ニ比シ全體ニ於テハ一割三分ヲ増加セルモ其ハ悉ク米國船ノ増加ニ依ルモノニシテ最モ旺盛ナリシ歐州向ニ就テ外國船ノ百萬噸ヲ増加セルニ對シ米國船ハ三百六十萬噸ヲ激増セルカ如キ大正八年ハ前年ニ比シ幾分ノ船腹ノ供給ハ増加シタルモ其船舶ノ大部分カ米船ナルコトハ最モ注意スヘキ事實ナリトス

米國發貿易從事船舶噸數(百立方呎一噸)

向地	年別	
	一九一八年	一九一九年
歐洲	一、二七、九五	一三、二〇、六三
北米	一六、〇八、七六	九、七〇、一八
南米	九五、九二	一、四八、〇五
計	二六、一〇、二二	二五、九六、九二
米國船	一、三六、八八	六、〇〇、一四
外國船	二四、七三、三四	一九、九六、七八
計	二六、一〇、二二	二五、九六、九二

極東	濠洲	亞弗利加	總計
一、三六、〇〇	一八〇、九〇	六二、五〇	一、三六、〇〇
一、三三、四〇	四〇五、一五	一八五、六八	一、三三、四〇
一、三六、八八	五八、一六	二四七、一八	一、三六、八八
一、七四、八九	七五、七五	三三三、〇八	一、七四、八九
二、三六、二二	四九四、四四	五二、五六	二、三六、二二

今各國船舶ノ運航狀況ヲ觀察スル資料トシテ左ニ巴奈馬蘇士南運河通過船舶ヲ示サン  
一、巴奈馬運河通過船舶數(年別)

年	度	隻	純噸數	積荷噸數
一九一九	四	三五二	一、二八、一九	一、七四、三四
一九一八	五	一、二四九	三、八七、五二	四、八九、一三
一九一七	六	一、二二二	三、八三、一一	四、八三、四六
一九一六	七	一、九六〇	六、三三、八三	七、四七、六八
一九一五	八	二、〇七二	六、四一、五二	七、二九、五〇
一九一四	九	二、一三四	六、九一、四九	七、四六、一六



二、大正八年巴拿馬運河通過船舶概況(國別)

北米合衆國	英 國	日 本	諾 威	智 利	秘 露	佛 蘭 西	瑞 典	和 蘭	伊 太 利 亞	其 他 (略)	合 計	三 月		五 月		八 月		十 月	
												隻數	積載貨物噸數	隻數	積載貨物噸數	隻數	積載貨物噸數	隻數	積載貨物噸數
五九	五五	八	八	八	五	七	一	一	一	一	一七	七五	二六〇八二	三〇六、七四	六三	三〇四、二五〇	八一	三〇〇、〇二六	
一九一、一六六	一八六、三三二	四、七五一	三三、九〇〇	一六、九一九	一〇、四六〇	二一、七四二		六、三〇〇			五六、〇四四	二六〇、八二	三〇六、七四	六〇、六七一	一〇	七〇、四六五	七〇	二七五、三〇八	
七五	七四	八	六	七	四	一	一				一七	二六	二七、〇〇〇	六、六七八	一〇	四八、〇二七	八	五、六六二	
二六〇八二	三〇六、七四	六〇、六七一	二七、〇〇〇	六、六七八	八、八六五	五、五二一					一七	二六	六四、一七二	八、八六五	一〇	四八、〇二七	八	二九、六六一	
八九	六三	一〇	一〇	七	四	一	二	二	一	一	一八	八九	三〇四、二五〇	七、六二五	七	八、四九九	五	一一、五八六	
三四、二五〇	二三八、三三五	七〇、四六五	二七、〇〇〇	八、四九九	七、六二五	二、三三九	一、四三四	一、四三四	七〇〇		七五、七四	三三	二、三三九	七、六二五	五	八、四九九	五	一一、三三三	
八一	七〇	八	八	五	五	八	二	四	一		一六	八一	一、四三四	二、三三九	八	二、三三九	二	一、七五〇	
三〇〇、〇二六	二七五、三〇八	五一、六六二	二九、六六一	五、五六一	一一、五八六	一一、三三三	一、七五〇	一、七五〇	九二〇		七五、八八一	二六	一、七五〇	二、三三九	八	二、三三九	二	一、七五〇	

三、一九一九年四月—六月蘇士運河通過商船數

英	日	蘭	佛	伊	丁 抹	合 計
四三二	六七	三五	二二	一八	一七	六四〇隻
二、一九九、〇八六噸	一、五八九、六八六	二〇八、五八四	一一七、七八八	三九、六八六	五三、五〇五	

第三 運賃、備船料並船價

此ノ如クニシテ本年ノ海運界ハ十月迄ハ一般ニ好況ヲ呈シタルカ今英國運賃市場ニ就テ觀察スルニ政府ノ運賃制限存スルカ爲メ大部分ノ航路ニ就テハ一九一七年末頃ヨリ殆ト運賃ニ變更無カリシカ新年ニ入ルモ中立國向貨物ノ輸出解禁ヲ見ス運賃管理亦繼續セラレタルヲ以テ商況抄々シカラス一月十六日政府ハ各國行石炭運賃率ヲ左ノ如ク引下ケタリ



着	發	他東岸諸港	タイン、ハル及其ノ	ブリストル海峽	ク	ラ	イ	ド
馬耳塞	馬耳塞	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
ゼノア	ゼノア	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
サボナ	サボナ	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
ネーブルス	ネーブルス	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
ツロ	ツロ	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
グリエニ	グリエニ	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
トリエ	トリエ	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
サロニカ	サロニカ	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
コンスタンチノブル	コンスタンチノブル	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
マタル	マタル	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
坡西士	坡西士	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
亞歷山亞	亞歷山亞	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六
シブラタル	シブラタル	五 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六	四 <sup>志</sup> 一六

ブエノスアイレス 七五〇 七〇六 七三〇

次テ一月二十六日英國汽船會社在米支店ハ一齊ニ米國北大西洋岸積歐洲行運賃ヲ三分ノ一ニ引下ケ英國行重量品一噸六十六弗、才量品一立呎一弗七十五仙ナリシヲ百度封一弗一立方呎五十仙ニ低下セシカ米國政府ニ於テモ此ニ對抗シテ運賃制限率ヲ同率ニ引下ケ更ニ一月末英國側ニ於テ阿弗利加及濠洲行運賃ヲ四割二分方引下ケタルニ對シ米國ニテハ南大西洋岸及「ガルフ」積歐洲行運賃ヲ四割二三引下ケタル等英米兩國ノ運賃競争ハ激烈トナリ世界海運市況ニ著シキ影響ヲ與ヘタリ、此ノ運賃引下ニ激成セラレ出貨増加スヘシト期待セラレタルモ一般ニ運賃先安ト輸出制限緩和トヲ見越シ荷況振ハス二月聯合國備船實行委員會カ英國佛伊間ヲ航行スル中立國船ノ備船料率ヲ改定シ船型ニ從ヒ四月迄二十五志乃至五十志五月ヨリ七月迄二十一志乃至四十二志八月ヨリ翌年一月迄十八志乃至三十八志トシ次テ白耳義向備船料ヲモ二十七志六片乃至五十二志六片トナセルハ市場ニ標準ヲ與ヘ一方五百噸以下ノ汽船及帆船ノ管理ヲ廢止スルト共ニ備船ニ關スル規則ヲ改正シ左記料率ヲ超過スル備船契約ノミ船船總監ノ認可ヲ要スルコトニシタルヲ以テ年初一箇年又ハ三箇年契約十七志六片ナリシ英國船ハ一年物二十二志乃至二十五志ヲ唱ヘタリ

- 重量噸 五百噸—七百五十噸 四十二志六片
  - 重量噸 七百五十噸—千五百噸 四十一志
  - 重量噸 千五百噸—二千五百噸 二十八志
  - 重量噸 二千五百噸以上 二十五志
- 戰時保險ノ費用ヲ除キ一箇月重量噸一噸ニ付



曩ニ英國政府ハ三月一日以後特別必要アルモノヲ除クノ外徵發船ヲ解除スル旨宣明シ一部實現ヲ見タルモ條件付ナル爲メ船主ハ活動ヲ拘束セラレ「デブラルタル」十七志六片坡西士二十二志六片ノ軍用船備船料ニテ就航スル狀況ナレハ解徵モ未タ市場ニ左シテ影響ヲ與フルニ至ラス況ヤ一月十六日發表ノ公定率ノ殆ト半額ノ運賃ニ過キサル一箇月重量一噸六志十片半ノ低率ニテ航路ヲモ定メス海陸軍ニ指定セラレタル船舶多キニ於テヲヤ此ノ如ク自由船舶乏シキニ反シ輸出入解禁ニ基ク物資ノ輸入激増セルヲ以テ三四月以來各方面共活況ヲ呈シ三月末英國ノ大西洋航路經營諸會社ハ曩ニ引下ケタル北米英國間運賃ヲ再百封度ニ付キ一弗ヨリ一弗五十仙ニ一才五十仙ヨリ八十四仙ニ引上ケタル程ニシテ運賃昂騰セシカ英國ニ於テハ物價調節策トシテ沿岸航路ノ運賃備船料ノ制限率ヲ二割五分方引下ケ遠洋航路ニ付テモ四月二日船舶省ハ穀物及砂糖委員會ノ備船スル英國不定期船ノ復航運賃ヲ濠洲百五志「プレート」六十二志六片瓜哇九十志ト定メタルカ其結果英國船ト外國船トノ間ニハ甚シキ運賃ノ開キヲ生シ七月「リバプレート」ヨリ英國向指定英國船運賃ハ六十二志六片ナルニ同大陸行外國船ハ二百六七十志ニ達セルヲ以テ賃率制限ノ緩和ヲ要求スル民間當業者多カリシカ遂ニ議會ノ問題トナリテ期間備船料ノ英國船ノ約二十志ナルニ外國船ハ四十志ナルコト及前記南米運賃ヘ差異ヲ指摘シテ英國船ノ不利益甚シキコトヲ質問セル議員アリシカ船舶省ハ英國船主ニシテ相當ノ利益ヲ舉クル以上消費者ノ利益ヲ擁護スル爲メ運賃ノ低下ハ緊要ナルヲ以テ當分變更セザル旨辯明シ次テ船舶管理官ハ小麥供給委員ノ指令ニ依リ加奈陀及南北米ヨリ穀物ヲ積取ル英國船ハ其船腹ノ二

割ヲ商取引ニ依ル穀物ノ積取ニ充テ得ル旨發表シ幾分市況ニ好影響ヲ與ヘシモ尙公定率ニハ變更ヲ見サリシカ七月中旬米國船舶院ハ備船及航海許可方ニ關スル一切ノ制限ヲ單ニ形式ニ止メテ廢止シ備船料並運賃ニ付最低又ハ最高率ノ遵守ヲ要セザルコトトシ又船舶燃料供給規定ヲ全部廢止セリ次テ八月英國亦外國諸港行石炭其他ノ運賃及備船料ノ制限ヲ撤廢シ外國船ノ備船料船舶院ノ備船料タル三十五志以下ナルトキハ船舶管理官ノ特許ヲ要セザルコトヲ宣言セルモ沿岸航路並復航ニ付テハ依然制限ヲ繼續シ殊ニ沿岸航路ニ付テハ許可ヲ要スルハ五百噸以上ノ船舶ニ限リタルヲ同航路船腹充實ノ爲メ二百五十噸以上ノモノニ及フコトニ改正セラレタリ其結果初春以來強調ヲ維持セル各方面ノ運賃ハ強氣味トナリ期間備船料モ英國船三十五志中立國船四十志ノ高値ヲ示シタルカ英國船ハ殆ト全部小麥管理委員其他ノ管理ニ置カレ配船ノ時期及場所ニ付キ干渉ヲ受ケ其船腹ヲ舉ケテ「リバプレート」積穀物、玖馬積砂糖ヲ輸送シ自由船舶ニ於テモ復航ニ付テハ制限存スルヲ以テ成ルヘク不許可ヲ避ケンカ爲メ英國又ハ聯合國向貨物ヲ積取り運賃高ナル中立國向ハ英國船以外ノ外國船舶ニ依リテ行ハル、ノ狀ヲ呈シ殊ニ八月「ヨークシヤ」ノ石炭罷業起ルヤ「ダイン」ノ石炭輸出禁止トナリ大船中沿岸航路ニ轉シタルモノサヘアリテ住航ノ解放モ影響少カリシカ一般ニ食料品其他ノ荷況殷賑ヲ極メタルヲ以テ船腹ノ需要旺盛ニシテ英國ニ於ケル船價ノ如キモ四月頃大型新船二十噸ニテ七月迄變化ヲ見サリシモ七月下旬ヨリ八月ニ入りテ約四割方騰貴シ二十八噸ノ高値ヲ告ケ八千二百噸ノ標準船二月ニハ十八萬磅ナリシモ七月ニハ二十二萬五千磅ニ昂騰セリ。



此好況ハ初春以來多少ノ消長アリタルモ久シク持續セラレ運賃益昂騰シ英國工業家ヲシテ復航運賃ノ騰貴ハ關稅保護ト等シキ作用ヲ爲スト唱ヘシメタル程ナルカ九月ニ入りテハ歐米各港ニ於ケル同盟罷業ニ次テ月末英國ノ鐵道大罷業起ルニ及ヒ一般產業界並海運界ニ非常ナル打撃ヲ與ヘ積揚荷ノ停滯ヲ來シタルノミナラス「ヨークシヤ」石炭罷業ノ後ヲ承ケテ產炭額ヲ減少シ爲メニ一時特殊英國船ノ外給炭禁止セラレ米國船舶ノ英國向發航中止ヲ見タルヲ以テ各方面ノ運賃弱含ミノ保合トナリ一般產業界ニ對シ半歲ヲ經ルモ回復シ得サル打撃ヲ與ヘタルカ漸ク其ノ解決ヲ見ルヤ次テ米國石炭坑夫ノ「ストライキ」起リ產炭量激減セル結果十一月一日石炭ノ輸出ヲ禁止シ外國船ニ對スル給炭禁止セラレ、ヤ海運界ハ再ヒ之カ影響ヲ受ケ各方面共漸落ノ傾向ヲ示シ獨リ英國發石炭運賃ハ騰貴セシモ荷役人夫ノ勞働時間ノ短縮不定期船ノ政府徵發ノ爲メ英國船ヲ利スルコト割合ニ少カリシカ幸ニシテ十二月十二日復業ヲ見タルモ今日迄ニ不足セル採炭量ニ相當ノ餘裕ヲ存スル迄ニハ尙月餘ヲ要シ漸ク十二月二十九日以降「ハンプトンロイツ」及「バルチモア」兩港ニ限り當分本年十月ノ輸出額ノ半分ノ石炭ヲ毎月輸出スルコトヲ許可スルニ至レルノ狀ニシテ此カ爲メ英國炭ノ減少以來米國炭ノ輸入ニ俟ツコト多大ナル伊佛等ノ歐大陸諸國ハ石炭ノ欠乏ヲ來シ炭價ノ昂騰甚シク船用炭ノ積込ニ苦心ヲ要スルニ至リタリ殊ニ歐洲各國ノ輸入超過ニ本ク相場ノ逆調ハ貿易ノ進捗ヲ阻害スルコト至大ニシテ米國ノ對歐貿易ヲ見ルニ本年十月迄ニ輸入五億四千萬弗ニ對シ輸出四十二億六千萬弗ニ及ヒ三十七億弗ノ片爲替ヲ生シタルヲ以テ英貨ノ如キモ爲替調節策ノ廢止ヲ見ルヤ漸次左ノ如ク低

落シ十二月ニハ三弗臺ニ暴落シ佛貨ハ更ニ甚シキ低落ヲ告ケタリ  
今紐育ニ於ケル英佛貨相場ノ變動ヲ見ルニ左ノ如シ

	平	價	四月(初)	八月(中旬)	十月(中旬)	十二月(末)
對英、一磅(電信)	四八六五	四六三〇	四三二三	四一九〇	三七六〇	
對佛、一弗(同)	五・八六	六・〇五	七・六九	八・五〇	一〇・八〇	

此磅、法、「リラ」ノ下落ハ米國品ヲ二三割乃至五割騰貴セシメタルヲ以テ般盛ヲ極メタル米國ノ對歐貿易モ氣勢ヲ挫カレ從テ海運界モ北米方面先ツ沈靜シ其他ハ弱含ミノ持合ニテ本年ヲ終レリ。  
更ニ「フエアープレー」誌ニ從ヒ各方面別ニ其荷況ヲ見ルニ地中海及「ベイ」地方ニ於テハ食糧省ノ徵用船漸減スルニ伴ヒ鑛石市場ノ運航狀態亦平常ニ復シタルモ鑛石以外ノ貨物及英國發往航ノ運賃割高ナル爲メ鑛石ノ積取船少キヲ以テ六月英國船舶管理官ハ命令ヲ發シテ石炭ヲ積載シテ「ベイ」諸港ニ向フ船舶ニシテ千噸以上ノモノハ空荷ニテ歸航スルコトヲ得サルコトトシ二千五百噸及三千五百噸ノモノハ坑木又ハ鑛石ヲ積ミテ歸航スヘキコトニセリ同方面ニハ米國船ハ石炭其他ヲ積載シテ多數廻集セシカ直接米國ニ歸航ヲ望ムモノ多キヲ以テ米國向運賃ハ低下シ亞歷山亞モ夏ヨリ秋ニ涉リ相當出貨有リタルモ運賃ハ低落氣味ニシテ黑海方面ハ依然備船界混沌タリ、



東洋方面ニ於テハ瓜哇及蘭領殖民地ハ久シク船腹不足ニ苦シメラレ天産物ヲ輸出スル事ヲ得ス滯貨集積セシカ今ヤ船腹ノ供給増加シタルヲ以テ歐洲各地ニ缺乏セル煙草、珈琲、砂糖ノ積出多ク運賃ノ如キモ價格昂騰ノ結果其賃率ノ高低ヲ問ハサルノ狀ニシテ日本船舶ハ莫大ナル運賃ヲ收メタルカ英國船ハ砂糖委員會ノ指定率九十志ヲ以テ輸送スルノ不利ナル立場ニ置カレタリ、印度ハ饑饉ノ爲メ孟買、甲谷陀、「カラチ」ヨリノ出荷減退セシヲ以テ運賃安ノ筈ナルモ蘭領殖民地ノ輸出額多キト船腹不足ナルトニ因リ賃率ハ強調ヲ呈セリ緬甸ヨリノ米ノ輸出ハ印度向ノ外禁止セラレシカ「ライス、ミール」及「糠」ハ自由ナリシヲ以テ百五志ヨリ二百十志ニテ盛シニ英國向輸送セラレ一般ニ定期船少キヲ以テ不定期船ノ利益莫大ニシテ古倫母積地中海向二百志乃至三百二十志ヲ唱ヘ西貢モ緬甸ト同様米ノ輸出禁止セラレ積荷少ク上海大連ヨリハ大豆高値ニシテ商談割合ニ少カリシカ久原鈴木等ト貿易商ト海運業トヲ兼營セル向ハ多量ノ積出ヲ行ヒ旺ンニ獨逸ニ輸送セリ、濠洲方面ニ於テハ英政府ノ買入レタル多量ノ小麥ハ指定ノ船舶ヲ以テ低率ニテ輸送セラレ其船舶ノ一部ハ伊太利政府ニ百二十五志ニテ割當テラレ自由船ニテハ日本船カ丁抹向出荷ヲ積載シテ發航セルヲ見ルノミニシテ英國船ハ此方面ヲ成ルヘク避ケタリ石炭モ亦勞働紛議ニ妨ケラレ太平洋諸島、智利及新嘉坡ニ向ケ積出サレタルモノ極メテ少シ「マダカスカル」亞弗利加東岸ニハ定期船腹減少シタルニ反シ歐洲ニ於ケル熱帶天産物ノ窮乏甚シクシテ不定期船ノ需要多キモ賃率（ザンデバル、馬耳塞二百十志ベリス）他ノ航路ニ比シ低率ナルヲ以テ商談ノ成立稀ニシテ又英國ノ指定船ハ多量ノ「メイズ」ヲ積載シテ

「ナタル」ヨリ英國向航發シ「マウリチウス」ヨリノ歐洲向ノ砂糖ノ輸送モ旺盛ナリ

南米方面ニ於テハ帆船及米國汽船ヲ除キテハ「リバプレート」ニ於ケル利用船腹少キ爲メ三月迄ハ歐大陸及地中海向積約少ク聯合國向食料品ハ徵發船ニ依ルノ狀ナリシカ四月英國汽船ノ一部解徵ノ影響ヲ受ケ備船増加セシモ解徵船ノ大部分ハ小麥委員ノ指定船トナリ又食料品以外ノ滯荷多量ナル爲メ食料品ノ賃率ハ五月最高ニ達シタリ六月以來船腹ノ需要益々多キモ英國船舶許可委員會ノ方針不定ナル爲メ英國船ハ著シク商業上ノ利益ヲ阻害セラレタルカ七月指定船モ其船腹ノ二割ヲ自由積取ニ當テラルルコトトナリタル爲メ幾分其ノ緩和ヲ見タルモ船舶院船ノ南米配船増加ハ運賃ヲ低下セシメタリ伯刺西爾方面ハ定期船及米國船ノ獨占ニ屬シ備約少ク智利ヨリハ秋ニ入り西班牙及大陸ニ硝石ノ輸送ヲ幾分見タルノミニシテ秘露ヨリノ備約モ亦稀ナリ

北米方面ニ於テハ歐洲向輸送旺盛ヲ極メタリ三月發布ノ制限最高率ニ依レハ米國太平洋諸港ヨリ英國迄小麥小麥粉百志大麥百二十志ナルモ此方面ヨリハ歐洲向商談ノ成立少ク木材ノ積出最モ多シ、英政府ハ加奈陀ニ於テ多量ノ小麥、木材ヲ買入レ從テ多數船舶小麥「コーター」四八〇封度十志小麥粉一噸五七志六片ニテ徵用セラレタリ自發的ニ米國ニ向ヒタル英國船ノ大部分ハ「ライセンス」ノ不許可ヲ避ケル爲メ聯合國向食料品ヲ相當有利ナル賃率ニテ積載シタルヲ以テ更ニ有利ナル中立國向貨物ハ日、米船及其他中立國船ノ掌握スル所トナリ其多數ハ歐洲ニ向ヒ極東、濠洲等ノ長途ノ航海ニハ備約少シ、此ノ如ク米國ヨリ歐洲



向出荷ハ一般ニ旺盛ナルモ最モ輸送多大ナルハ石炭ニシテ殊ニ「ヨークシヤ」炭坑「ストライキ」及英鐵道「ストライキ」中ハ最モ般賑ヲ極メ英船ハ多數徵發セラレテ米炭ヲ大西洋及地中海ノ貯炭所ニ輸送シ又伊太利向發船多數ニ達シタルカ十一月石炭「ストライキ」以來凋落セリ棉花ノ輸送ハ多カラサリシモ玖馬ヨリ砂糖及墨西哥諸港ヨリ小麦ヲ積取ル爲メ多數指定船ノ徵用ヲ見タリ、次ニ船價ノ變動ヲ見ルニ米國ニ於ケル拂下價格ハ市場ニ標準ヲ示スモノト謂フヘク木船噸(重)當リ大型百四十五弗小型百十五弗鋼船大型二百二十五弗小型二百弗ニシテ英國ニ於テモ七月迄ニ百四十萬噸(總)ヲ三千三百萬噸ニテ拂下ケタレハ一噸(總)當リ二三・六磅トナレルカ尙英國市場ニ於テ標準トセラルル重量噸七千五百噸ノ新造貨物船ノ船價ヲ見ルニ前年末噸二十二磅ナリシモ本年初ニハ噸約二十五磅ニ上リ爾來益々昂騰シテ六月末ニハ二十六磅トナリ遂ニ年末ニハ三十一磅ニ奔騰シ之ヲ戰前ノ六磅八志ニ比スレハ殆ト五倍ニ達セリ七八千噸ニシテ年齡五六年ノ中古船ハ五月頃ハ十九磅十五志乃至二十一磅ナリシカ七月ニハ二十四磅ニ昂騰シ更ニ十月ニハ二十七磅ヲ稱ヘタリ

又英國ニ於ケルA型船(約八千二百二十五重量噸)ノ相場ノ變動ヲ見ルニ一月ニハ二十磅十二志半ナリシモノ四月二十一磅十志、五月二十六磅八月、二十七磅ニ漸騰シ其外國人ニ賣却セラレタルモノハ四月既ニ三十三磅ヲ唱ヘ九月四十磅ニ達シタリ

更ニ英國市場ニ於ケル備船料ノ變動ヲ見ルニ一、二月ニ於テハ英國船六箇月又ハ一年契約ニテ六八千噸型二十志乃至二十二志五六千噸型二十五志ヲ唱ヘ米國航路ハ船舶院率ノ三十五志ヲ普通トシ極東航路ハ五十五志乃至六十志又ハ一往復九十二志六片ナリシカ三四月ニ入り英船ハ持合ナリシモ中立國船ハ米國航路三十五志一般ニハ四十志ヲ稱ヘ極東航路ハ二十八志乃至三十志ニ低落シ五六月ニハ英國船二十四志五志ヲ唱ヘ米國航路ハ特ニ般賑ヲ極メ四十志ニ騰貴シタルカ殊ニ注目スヘキハ大西洋航路ニ日本船ノ出現ヲ見ルニ至レルコトナリ爾來十月ニ至ル迄好況ヲ持續シタルカ十一月以後ハ漸ク市況軟弱トナリタリ其變動左ノ如シ

(一) 英國市場

一、二、三、五、七、九、十一、	二、四、六、八、十、	月	英國船	非英國船	極東航路
七、八千噸型二〇志—二二志 五、六千噸型二五志 三箇年契約一七志六片	保	月	英國航路 三五志(船舶院率)	米國航路 一四四〇志 米國航路(日本船) 三〇志—三七志六片 米國航路 三七志六片—四二志六片 米船四六志—四八志 日本船三五志—四〇志 日本船 三七志六片—四〇志	五五志—六〇志 一往復九二志六片
米國三志 一般四〇志	合	月	米國航路四〇志 大西洋航路(日本船) 三〇志—三七志六片	二八志—三〇志	
二四志—二五志	志	月	米國航路 三七志六片—四二志六片	二五志—四〇志	
二五志	志	月	米船四六志—四八志 日本船三五志—四〇志		
〇	志	月	日本船 三七志六片—四〇志		
保	合	月			



(二) 米國市場

一	年	三	月	五	月	八	月	十	月	十二	月
六	箇	二五志			九二五	四三六	九五	四〇志	四二六		
三	箇	九弗			四〇志	九五〇	八五	四〇志	四二六		
大	西洋	二二志			一一弗	一一弗	九五	一一弗			
一	航海	九五			一〇五	一〇五	一〇弗				八五

運賃ノ變動ニ付テハ既ニ概説シタルカ其詳細ハ別表ニ示セルカ如クニシテ之ヲ戰前ニ比スレハ尙其昂騰甚シク「カーヂ」ヨリ坡西土ニ至ル石炭運賃ヲ見ルニ大正二年ニハ一噸ニ付最低七志ヨリ最高十二志ヲ超ヘサリシニ大正八年ニハ最低四十六志最高七十五志ニ達シ又南米「プレート」ヨリ英國ニ至ル小麥運賃ハ戰前ニハ最低十六志最高三十三志ニ過キサリシモノ本年ハ最低六十二志六片最高二百七十志ヲ超ユルニ至リ四倍乃至八倍ノ騰貴ヲ示セルカ戰時ノ變態終了後依然運賃ノ強調ヲ見ルハ先ニ述ヘタルカ如ク船腹ノ需要旺盛ナルニ拘ラス其供給不足ナルニ由來スルヤ勿論ナリト雖モ船費ノ一般ニ激騰セル結果ニシテ先ツ船價ニ付テ見ルニ大正二年六月ニハ七千五百噸型ノ貨物船一艘五萬四千磅ナリシモノ大正八年六月ニハ十九萬五

千磅ニ昂騰シ十二月ニハ二十三萬二千五百磅ヲ示シ三四倍ノ騰貴ニ當リ船員ノ給料、人足ノ勞銀及荷役費ノ如キモ彼阿會社ノ計算ニ據レハ十三割乃至二十割ノ騰貴ニシテ修繕費亦三十四割ノ暴騰ヲ來シ軍用船ノ改造修繕費ノ如キハ戰前ノ造船費ヲ超過スト稱セラレ殊ニ船舶ノ血液タル船用炭ハ次ニ示スカ如ク二倍乃至五倍ノ激騰ヲ來シタルヲ以テ船腹ノ需給關係ハ假ニ整調ヲ呈ストスルモ運賃ノ昂騰ハ當然ノ結果ト云ハサルヘカラス

因ニ一般商品ノ卸値段ノ騰貴ハ英國商務院ノ調査ニ依レハ戰前ニ比シ英國ハ二倍、日米ハ二倍半佛伊ハ四倍ナリトフ謂フ

坡	西	土	カ	チ	フ	炭	種	一	九	一	三	年	一	九	一	九	年	(十一月)
古	倫	母	印	度	炭	三三六												一五一〇
新	嘉	坡	日	本	炭	二七六												八七六
上		海	開	平	塊	二五六												九三六
倫		敦	北	英	炭	一五〇												七五〇
紐		育			炭	一八六												九八九
ケ	ー	ブ			炭	三二五												六二五
ケ	ー	ブ			炭	二六〇												四九九
ブ	エ	ノ			炭	四三〇												一四五〇



此ノ如クシテ歐洲ハ一般ニ物價騰貴、食料品、原料品並石炭ノ不足、爲替相場ノ逆調、勞働紛議、産業不安等ノ諸原因ニ基キ商況沈靜ヲ極メ産業回復ノ日未タ近キヲ期スヘカラスト雖モ一方ニ於テハ各國共產業ノ復興ニ全力ヲ傾倒シ地方ニ於テハ一般物資ノ缺乏尙甚シキヲ以テ爲替相場ノ調節ヲ得ルニ於テハ荷況モ活潑トナルヘシト雖歐米汽船會社ハ會社ノ併合統一ニ依リテ陣容ヲ整ヘ著々航路ノ復舊新設ヲ企圖シ政府亦港灣ノ設備改善ニ努力スルト共ニ自國船保護ノ色彩漸ク濃厚ナラントシ近ク英國船舶管理全廢及米國ノ國有船處分ヲ見ルヘキヲ以テ世界海運界ノ前途ハ多事多難ナリト謂フヘシ

付表 (一) 本年中ニ於ケル米國船舶院公定運賃率ノ變更左ノ如シ

- 1 一月三日船舶院ハ大西洋岸積各地行運賃ヲ左ノ如ク改ム  
 シドニー行 四〇弗 甲谷陀古倫母行 四五弗  
 南阿行 三五弗 日本支那行 四五弗
- 2 一月九日船舶院ハ大西洋岸諸港積歐洲行棉花運賃ヲ引下ケタリ  
 英國行 百封度 四弗五十仙(從前ハ五弗八十仙)  
 馬耳塞行 同 四弗七十五仙(從前ハ六弗五十仙)
- 3 一月二十二日船舶院ハ白耳義行食料及再興ニ要スル貨物ニ對シ特別運賃ヲ制定セリ
- 4 一月二十六日政府ハ英國側ノ引下ニ對抗シ北大西洋岸諸港積歐洲行及印度行運賃制限率ヲ左

ノ通り引下ケタリ

- 英國行 百封度 一弗 一才五十仙(從前一噸六六弗)
- 馬耳塞行 同 一弗六十仙 同 八十五仙(同 七一・五弗)
- 甲谷陀行 同 一弗十仙 同 六十仙(同 四五・〇弗)
- 南大西洋岸及「ガルフ」積歐洲行運賃モ三十日ニ至リ四割二三分引下タリ十一月ニ於テモ穀運賃百封度一弗ナリ
- 5 一月三十一日船舶院ハ北大西洋岸諸港積各地行運賃制限率ヲ左ノ如ク引下ケタリ  
 東洋行 重量品 二〇弗 輕量品 二五弗(舊率四五弗)  
 蘭領印度及浦羅行 同 四〇同 同 四〇同(同 六〇同)  
 南阿行 同 二〇同 同 二七同(同 三五同)  
 濠洲行 同 一五・八同 同 二五・三同(同 二五・三同)
- 6 二月四日船舶院ハ來ル三月一日ヨリ東洋行運賃ヲ引下クル旨發表セリ  
 自桑港至日本、支那、馬尼刺 重量品 一二弗  
 才量品 一四弗  
 同浦羅 共ニ 二五弗



- 17 二月五日船舶院ハ太平洋岸諸港積大洋岸諸港行材木運賃ヲ千平方呎(約二噸)ニ付十八弗ニ制限セリ
- 8 三月二十日政府ハ期間備船料制限率從來三十五志ナリシヲ九弗五十仙ニ改正セリ
- 9 三月二十八日船舶院ハ太平洋岸諸港積東洋諸港行運賃制限率中左ノ三例外ヲ制定セリ  
ガ ソ リ ン 二千封度 一七弗 四十才一九弗  
爆發物ダイナマイト 同 二四弗 同 二八弗  
材 木 千平方呎 二五弗
- 10 七月太平洋運賃同盟ハ米國太平洋沿岸諸港ヨリ東洋各港間運賃ヲ從來ノ重量品十二弗輕量品十四弗ヨリ一律ニ十四弗ニ引上ルコトニ決シタリ船舶院所有船賃率ハ從前通りナリ
- 11 八月四日船舶院ハ米國太平洋岸及東洋間ノ運賃ヲ改正シ重量貨物ハ二千封度ニ付キ十二弗乃至三十弗才量貨物ハ四十立方呎ニ付キ十二弗乃至二十五弗トスル旨發表セリ
- 12 十一月十八日船舶院ハ西班牙向賃率ヲ改正セリ  
雜貨、リスボン、オポルト 百封度 一・五〇弗 一立方呎 七〇仙  
    ビルボア、カデイズ 同 一・六〇〃 同 七五〃  
    其ノ他地中海西國諸港 同 一・七〇〃 同 八〇〃  
木材ハ千呎ニ付西班牙「バルセロナ」迄七十弗(南大西洋)七十三弗(ガルフ)トス

- 13 十一月船舶院ハ獨逸行運賃ヲ左ノ如ク定ム  
    ブレメン及漢堡 百封度 一・五弗 一立方呎 七〇仙  
    尙日本向棉花運賃モ之ヲ改正セリ
- 14 十一月七日船舶院ハ米國大西洋、ガルフ諸港ト東洋諸港間ノ運賃ヲ左ノ如ク改正セリ  
    雜 貨 百封度 一弗一二仙 一立方呎 六二・五仙  
    高密度棉 百封度 一弗七五仙  
    標準密度棉 同 二弗
- 鐵材ハ二十弗トス

付表 (二) 米國ニ於ケル運賃相場(船舶院率中、印ノモノハ市場率ト同一ナルヲ示ス)

自 紐 至 英 安 佛 土 府 國 國	才 量 品(一立方呎)		重 量 品(百封度)	
	九 月(七旬)	十 二 月(中旬)	九 月(上旬)	十 二 月(中旬)
船 院 率	0.50	0.50	1.00	1.00
市 場 率	0.85	0.50	1.50	1.50
船 院 率	0.60	0.60	1.15	1.15
市 場 率	0.90	0.50	1.75	1.10
船 院 率	0.60	0.60	1.15	1.15
市 場 率	0.90	0.50	1.75	1.10











(イ) 南米方面	
四月	南米—西班牙 雜穀噸 二五〇志
	モンテビデオ—英國 同 二〇〇同
六月	南米—佛國 雜穀 二四五同
八月	同—歐大陸 一五〇同
九月	同—同 一八〇同
十一月	同—英國 一六五同
十二月	同—ブレイト—歐洲 雜穀 一八〇—二〇〇志
	智利—安土府、漢堡 硝石 二〇〇—二三〇志
	南米—安土府、ロツテルダム、アムステルダム 雜穀 一九五—二〇〇志
	漢堡 二二〇志
	アーブル 二〇〇志
	紐育 珈琲 七〇仙
(ロ) 濠洲方面	蘇士 麥粉 噸 一〇〇志

(ハ) 爪哇方面	
四月	地中海 雜穀 噸 一二五同
五月	英國 麥粉 同 一四〇同
九月	同—小麥 同 一五〇同
十月	同—同 同 一三五同
一月	哇—馬耳塞 砂糖 噸 一四磅
二月	安土府 同 一五同
	馬耳塞 同 一二同
三月	安土府 同 一五同
四月	歐洲 同 六磅—六磅一〇志
五月	安土府—ロツテルダム 同 一〇同
	哇—坡—西土 砂糖 噸 五磅一〇志
	歐洲 同 九同
	ロツテルダム 同 一〇同
六月	英國、北歐 砂糖 噸 九磅—一〇磅



七月	地中海	同	七磅一〇志—八磅一〇志
馬耳塞	同	一一磅	
安土府	同	一三磅	
倫敦	同	一一磅一〇志	
歐洲	コブラ	一二磅	
佛國	砂糖	一一磅	
坡西土	同	一〇磅一〇志	
ロツテルダム	コブラ	一四磅一〇志	
北歐	煙草	一四磅五志	
哇—英	砂糖	一二磅	
坡西土	同	一〇磅	
坡西土	同	九磅一〇志	
同	同	一三磅—一三磅一〇志	
同	同	一二磅	
同	同	一二磅一〇志	

四四

十二月	歐洲	同	一二磅五〇志—一二磅
英國	同	一〇磅	
(ニ)南阿方面	雜貨	二二〇志	
五月	馬耳塞	油、コブラ	五磅四志—五磅八志
六月	亞弗利加西岸—李浦	穀類	一〇磅
亞歷山亞—李浦	棉花	三磅一五志	
亞弗利加西岸—リスボン		一〇磅	
亞歷山亞—英國		四磅一〇志	

第三節 世界造船狀況

今次ノ世界大戰亂ハ各國ヲシテ齊シク如何ニ海運ノ緊要ナルカヲ自覺セシメタルノミナラス産業復興ノ前提要件タル物資ノ輸入ニハ船腹ノ充實ヲ最モ必要トシタルヲ以テ戰後未タ一般産業狀態ノ回復セサルニ拘ラス先ツ造船業ノ振興ヲ企劃シ戰時中造船力ノ減退並艦沈船ノ類出ノ爲メ船腹ノ減少ヲ來シタルヲ補充セントシテ船舶ノ建造漸次旺盛トナレルカ今「ロイド」ノ調査ニ依ル本年三、六、九、十二ノ各月末ニ於ケル各國ノ建造中ノ百噸以上ノ船舶ヲ比較シ其造船力回復ノ跡ヲ見ルニ左ノ如シ



英	英	米	日	和	伊	佛	瑞	西	諾	丁	支	葡	
本	國	領	國	本	國	利	國	典	牙	威	抹	那	牙
國	領	國	本	國	利	國	典	牙	威	抹	那	牙	牙
六五七	一八四	一、五五	七四	八七	五九	三三	三三	七三	四二	六二	三八	六	三二
二、五四八、四五	三〇三、〇八	四、八五、五三	二、五四八、三五	一、八二、〇八	一、五〇、三四	一、〇九、七五	一、〇〇、一三	一、二二、八五	六七、〇六一	五、〇九、九	一、五、〇〇〇	一、三、四〇〇	
七三	二〇九	九四	六三	八八	六	三六	六九	四〇	四〇	四一	七	二九	
二、五四、〇五	三、四六、四五	三、八四、一四	二、八二、〇六	二、九三、三三	二、七二、六〇	一、〇九、六五	九七、二四五	一、一八、五五	六二、四四一	五、七、七二	一、四〇〇	一、一、三、一〇	
七二	一七四	七六	六四	一三	一〇八	六四	六四	二六	七三	四	二	二九	
二、八二、六七	三〇八、四五	三、四七、〇七	二、九六、〇〇	二、八八、〇四	二、八五、九八	一、七四、七六	一〇一、二七	九〇、七〇五	八三、九四一	六八、〇七四	一、五〇〇	一、一、三、一〇	
七五	一一三	六四	六四	二六	二五	六五	六七	二八	六二	五	二	九	
二、九四、二四	二、五二、八〇	二、九六、五五	三、〇九、四四	三、八三、三八	三、四四、五七	二、六七、七五	一、〇七、六五	一〇七、四六	九二、七一九	一〇〇、三三五	一、五〇〇	五、二、一〇	

白	耳	義
計	計	計
二、五〇二	二	二、五〇二
七、七九、二六六	一、五〇〇	七、七九、二六六
二、五〇六	二	二、五〇六
八、〇一、七六七	七、〇六三	八、〇一、七六七
二、三三八	二	二、三三八
八、〇四、八八二	七、〇六三	八、〇四、八八二
二、三三八	二	二、三三八
七、八六、一三六	一、五〇〇	七、八六、一三六

之ヲ戰前建造中ノ船舶最モ多カリシ一九一三年六月ノ三百四十四萬五千噸ニ比スレハ二倍以上ノ増加ニシテ更ニ各國別ニ見ルニ戰時中造船事業旺盛ヲ極メタル米國ハ漸次其減少ヲ示シ日本亦隻數ニ於テハ幾分減退ノ傾向ヲ示セルニ反シ英、佛、伊等戰時中造船高著シク減少シタル諸國ハ著々造船力ノ復興ヲ圖リタリ即チ三月末ニ於テ英本國ノ建造中ノ船舶ハ米國ノ二分ノ一ニ過キサリシニ次第ニ兩者接近シ九月ニハ隻數ニ於テ米國ヲ凌駕シ十二月ニハ噸數ニ於テモ優越スルニ至リ伊太利ハ三月五十九隻ヨリ九月百八隻ニ佛國亦三十三隻ヨリ六十四隻ニ共ニ倍加セルカ如キ注目スヘキ事實ニシテ伊太利ハ豫テ地中海方面ノ英國船舶ノ跳梁ニ含ム所アリ佛國亦戰時中外國船主ニ約百億法ノ儲船料ヲ支拂ヘルニ願ミ造船力ノ増進ニ努メタルモノナリ

此ノ如クシテ本年ノ世界造船高ハ「ロイド」調査百噸(總)以上ノ商船進水高ニ依レハ左ノ如クニシテ勞働紛議續出シ鋼鐵ノ產出減少セルニ拘ラス前年ニ比シ更ニ百七十萬噸ヲ増加シ大正三年ノ約三倍ニ達セリ



英	英領	佛蘭	日	北米	伊太	諸	瑞	和	丁	西	其	合	年
吉	領	蘭		合	太					班	他	計	
利	地	西	本	國	利	威	典	蘭	抹	牙			三
一六八三五三	四七五三四	一四〇五二	八五八六一	二〇〇七六三	四二九八一	五四二〇四	一五、一六三	二八、二五三	三三、八二五		三六、一四八	二、四三二、二二六	年
六五〇、九一九	三、一〇一四	二、五四〇二	四、九四〇八	一、七、四六〇	三、二、一三三	六、一、〇九〇	一〇〇、三一九	一、三、〇七五	四、五、一九		一、三、六四一	一、一〇一、六六八	四
六〇八、三三五	三、二、五七一	四、一、七五二	一、四、五、六四	五、四、一、四七	五、六、六五	四、二、四、八	三、六、七、九	一、八、〇、一、七	三、五、二、七		一、四、二、九六	一、六、八、八、〇〇	五
一、二、六、二、八、六	九、四、四、七	一、八、八、一、八	三、五、〇、一、四	九、九、七、九、九	三、八、九、〇、六	四、六、一、〇、三	二、六、七、七、〇	一、四、八、七、七	二、〇、四、四、五		三、三、五、五八	二、五、七、七、六、六	六
一、三、四、八、二、〇	二、七、九、九、〇、四	一、三、七、五	四、四、九、九、四	三、〇、三、〇、三、〇	六、〇、七、九	四、七、七、三	三、九、九、三	七、四、〇、二、六	二、六、一、五、〇		三、七、四、九二	五、四、七、四、〇	七
一、六、〇、〇、四、二	三、五、八、七、八	三、三、六、三	六、一、八、八、三	四、〇、七、五、三、五	八、二、七、三	五、七、五、八	五、〇、九、七	一、三、七、〇、八、六	三、七、七、六		五、一、六、〇九	七、一、四、五、四、九	八
六、二、二	二、六、三	三、四	一、三、三	一、〇、五、二	三、三	八、二	五	一〇〇	四、六		四、一	二、四、八、三	年

(本表中ニハ獨逸兩國ノ進水船舶ヲ含マス)

然レトモ本年ノ世界造船界ハ依然貨物船時代ニシテ英國ノ如キモ僅ニ客船三隻ノ建造ヲ見タルニ過キス  
 (一) 英國ニ於テハ本年一月七日造船總監ノ名ヲ以テ今後各造船所及修繕所ハ自由ニ船舶業者ト造船又ハ  
 修繕ノ交渉ヲナシ得ルコトヲ公表シ次テ同月十五日各造船業者ニ對シ爾後政府用以外ノ造船ヲ爲スコト  
 ヲ得セシメ又船主ニ對シテモ任意ノ場所ニテ修繕ヲ爲シ得ルコトトナシ尙船舶十五年以上ノ船舶ヲ外國  
 人ニ賣渡サントスル者ニハ其賣却金ヲ新造船ニ投資スル保障アルトキニ限り其許可ヲ審議スヘキ旨通牒  
 ヲ發シ著々造船業ヲ振興セン事ニ努メタルカ修繕船ノ増加ト海軍工事ノ繁劇トノ爲一月ヨリ三月ニ至ル  
 第一期ニハ七十四隻二十萬五千噸ノ進水ヲ見タルノミニシテ豫期ニ反シ少カリシヲ以テ一時悲觀セラレ  
 タルモ其後注文船ノ増加、修繕工事ノ完了及造船職工ノ復員ハ次第ニ造船業ヲ活潑ナラシメ四月ヨリ六  
 月ニ至ル第二期ニハ汽船ノミニテ百八十一隻五十一萬四千噸トナリ帆船ヲ合シ五十二萬八千噸ニ達シ七  
 月ヨリ九月ニ至ル第三期ハ幾分減少シテ百六十二隻四十一萬六千噸ヲ示シ結局大正八年ニ於テハ六百十  
 二隻百六十二萬噸ノ進水ヲ見前年ニ比シ二十七萬噸ノ増加ヲ見タルモ大正三年ニ比スレハ尙六萬噸ヲ減  
 少セリ同國造船所中最モ良成績ヲ舉ケタルハ「クライド」地方ニシテ大正七年ニ比シ約十七萬七千噸ノ増  
 加セルカ今「グラスゴー」ヘラルド」誌ノ調査ニ從ヒ全造船高(商船以外モ含ム)ヲ王國別ニ示セハ左ノ如シ



王國別	隻	噸	總噸數
英	六七九	九八〇、一二七	
蘇格蘭	五四五	七二八、六八七	
愛爾蘭	四四	二二二、九五五	
合計	一二六八	一、九三一、七六九	

右ハ海軍艦艇及其他ノ軍用船ヲ含ムヲ以テ此ヲ控除シタル本年中ノ英國進水船舶六百十二隻中五千噸乃至六千噸ノモノ六十二隻ヲ占メ一萬噸以上ノモノハ僅ニ四隻ニ過キサレモ年末ニ於テ建造中ノ一萬噸以上ノ船舶ハ五十五隻ニ達シ其五百噸以上ノ進水汽船ノ平均噸數ハ四千六噸ニシテ過去五年中大正四年ヲ除ク外他ノ孰レノ年ノ平均噸數ヨリモ小ナリ本年ノ造船ニ付キ注目スヘキハ第一ニ依然貨物船ノ多キコトニシテ定期船ハ開戦後初メテ進水ヲ見タルモ僅ニ三隻ニ止マリ第二ハ燃油船ノ激増ニシテ現ニ建造中ノ過半ヲ占メ標準船亦漸減セリ進水船舶中外國ノ國籍ヲ取得セルモノハ僅ニ二十九隻九萬七千四百六十噸即全體ノ六%ニ過キスシテ大正六七年ニ比スレハ素ヨリ多シト雖モ戰前五箇年ノ平均二、三%ニ比スレハ遙ニ少ク尤モ現ニ外國殊ニ北歐諸國ノ爲メ建造中ノ船舶ハ二百二十九隻九十六萬二千噸ニ達セリ此ノ如クシテ本年ノ造船計劃ハ初メ二百三十萬噸ト稱セラレタルニ拘ラス造船材料ノ引渡遲延、造船職

工ノ罷工並怠業、作業時間ノ短縮等ノ爲メ造船工事ノ進捗亦其打撃ヲ蒙リ造船能力三百萬噸ト唱フルニ約二分ノ一タル百六十二萬噸ノ進水ヲ見タルニ過キサレモ今ヤ空前ノ活況ヲ呈シ今後二年間ノ工事ハ既ニ契約済ナリト謂フ

(一) 英本國ハ此ノ如ク大正三年ニ比シ幾分ノ減少ヲ示セルニ反シ英領地ノ造船業ノ發展ハ最モ顯著ニシテ三十五萬九千噸ヲ進水シ大正三年ノ約八倍ニ達シタルカ其中二十七萬一千三百六十四噸ハ加奈陀ニテ占メ殘餘ノ八萬七千噸中ノ約半額ハ香港ニ於テ進水シタルモノナリ加奈陀濠洲南政府ハ自ラ船舶ノ建造ヲ計劃シ加奈陀カ本年中領内十三個所ノ造船所ニ注文シタル貨物船五十七隻ニシテ濠洲亦十一月ニ於テ領内ニ二十六隻英國ニテ六萬四千噸ヲ建造中ナリト謂フ

(二) 北米合衆國ハ戰時中尤大ナル造船計劃ヲ立テ世界ヲ驚嘆セシメタルカ休戰以來四月下旬迄ニ約四百萬噸ノ造船契約ヲ取消シタルノミナラス新設造船所中早クモ閉鎖スルモノヲ生シ或ハ各地造船所ニ於テ勞働紛議續出シ同盟罷工數百ヲ數ヘタルニ拘ラス造船業投資約三億弗ヲ増加シ本年中ニ於テ千五十一隻四百七萬五千噸ノ進水ヲ見前年ニ比スルモ尙百四萬二千噸ヲ増加シ全世界ノ進水高ノ五七%ヲ占メ其船種ニ於テモ木船ニ於テハ四十一萬五千噸ヲ減シ鋼製汽船ノ増加百四十三萬一千噸ニ及ヒ其投資額モ本年中ニ於テ三千二百萬弗ヲ増加セリ其船型ハ五千噸乃至六千噸ノモノ百三十七隻六千噸乃至一萬噸ノモノ二百五十一隻一萬噸以上ノモノ五隻ニシテ又地方別ニ示セハ左ノ如クニシテ大西洋岸最モ増加セリ



大 西 洋 岸	汽 船		帆 船	
	鋼	木	鋼	木
大 平 洋 岸	一七七、八三二	八二、六九九	五、五三三	八、〇四一
ガ ル フ 地 方	一三七、六〇五	七四、三七一	四、五〇〇	二、六七三
大 湖 地 方	一、〇八〇、二五〇	二、三九二	—	—
大 湖 地 方	—	—	—	—
大 湖 地 方	四九五、五九九	—	—	—

内船舶院ノ註文船ニシテ本年申ニ引渡ヲ了シタルモノハ左ノ如シ

- 鋼 船 七四一隻 四、八三八、六七三噸(重)
- 木 鋼 船 一二隻 四二、〇〇〇噸
- 木 船 四〇三隻 一、三三八、六五〇噸
- 混 凝 土 船 三隻 一〇、〇〇〇噸
- 合 計 一、一五九隻 六、二二九、三二三噸(重)

尙民間ノ註文ニ依ル鋼船ノ建造中ノモノハ十月ニハ三十五萬噸(總)ナリシモ十一月ニハ百十八隻五十五萬噸ニ増加シ十二月ニハ八十萬噸ト傳フルモ外國人ノ註文ニ係ルモノハ五月十三日以来政府ノ認可ヲ經

レハ建造シ得ルニ拘ラス尙許可ヲ必要トスル結果前記十一月ノ百十八隻中一隻ニ過キス米國ノ船價ハ爲替相場ノ關係ヨリ割高ナルモ爲替ニシテ平調ニ服スルトキハ歐洲諸國ヨリノ註文増加スヘク米國大西洋岸造船業組合ノ報告ニ依レハ米國ハ新式ノ機械ヲ使用スルヲ以テ工事迅速ニシテ一造船臺ノ造船高ハ英ノ二ニ對シ三ノ比例ナルモ現在ニ於テハ米國船ハ英國船ヨリ約一割高ナリト謂フ而シテ米國ニ於テモ近時燃油船増加ノ傾向著シク建造中ノ船舶ノ五分ノ四ハ燃油船ナリト傳フ

今英國船舶省カ戰時中海外ニ註文セル船價ヲ見ルニ左ノ如クニシテ米國ノ平均船價最高ヲ示セリ

船造地	隻數	平均船價(一重量噸)
北米合衆國	一三	四五—七七—一〇 <sup>片</sup>
日 本	一九	四四—一七—一八
支 那	三	四一—〇—〇
加 奈 陀	四四	三九—一〇—〇
香 港	一一	三三—一—一九

(四) 伊太利ニ於テハ戰時中ニ於テモ造船材料ノ輸入税ヲ免除シ又ハ獎勵金ヲ給與セシカ戰後益々造船業ノ勃興ニ努メ八月十億法ノ商船隊改善費議會ニ提出セラレタル程ニシテ三月ノ「ハ—レー」氏ノ報告ニ依レハ造船臺百個造船能力八十萬噸ニ達セルカ如キモ國內混亂セルト石炭ノ全部及鋼鐵ノ大部分ヲ輸入ス



ルヲ要セルトニ因リ大正八年ニハ「トリエスト」ニテ進水セル二萬三千五百噸ヲ加ヘ三十二隻八萬二千七百噸ニ過キスシテ五千噸乃至六千噸ノモノ九隻六千噸乃至八千五百噸ノモノ三隻ナルモ漸次發展ノ傾向顯著ニシテ殊ニ「トリエスト」ノ加ハレルコトハ非常ナル強味ナリトス

(五) 佛國ニ於テハ一九一四年職工ノ徵發セラレタル爲メ造船業者ハ一齊ニ休止シ英國ヨリノ輸入造船材料ハ在佛聯合國船ノ修繕ヲ充スニ過キサルノ有様ニテ二三年ヲ經過セルカ休戦後職工ノ歸還ヲ見ルニ及ヒ自國船舶ヲ戰前ノ二倍半即チ少クトモ五百萬噸(總)ニ増加スルノ計劃ノ下ニ多額ノ國立商船隊再建造費ヲ支出セムトスルニ至リ又石炭輸入ノ減少ニ因ル産鐵額ノ減少ハ造船業ニ禍シタルカ復興大臣ハ佛造船所ニ對シ時價噸九百二十法ノ鐵板ヲ六百法ニテ供給スル等大イニ復興ニ努メタルヲ以テ白耳義ト共ニ最モ回復速カナリト稱セラルルニ拘ラス同盟罷業等ニ妨ケラレ本年ノ進水高ハ三十四隻三萬二千六百六十三噸ニ過キスシテ未タ大正三年ノ三分ノ一ニ及ハス其最大進水船舶モ四千五百噸(總)ニ過キスシテ平均一隻千二百噸乃至二千噸ナリ

(六) 西班牙ノ造船業ハ戰時中長足ノ發達ヲ遂ケタルカ鐵材ノ自給可能ナルヲ以テ將來更ニ發展スヘク一方「ビルバオ」「カルタゼナ」ノ海軍工廠ヲ商船造船所ニ變更セルカ大正八年ニ於テハ四十一隻五萬二千六百噸ヲ進水シ前年ニ比シ三萬五千噸ヲ増加セリ

(七) 丁抹、諾威、瑞典ノ「スカンデナビヤ」半島諸國ノ進水噸數ハ十四萬六千噸ニ達シ前年ニ比シ三萬二

千九百噸ヲ増加シタリ

(八) 和蘭ノ進水船舶ハ百隻十三萬七千噸ニ達シ前年ニ比シ約二倍ニ増加シ英米日ヲ除キテ十萬噸以上ヲ進水セル唯一ノ造船國トシテ異彩ヲ放タルカ戰争ニ因ル原料不足ニ禍セラレ五千噸以上ノモノハ僅ニ三隻ニ過キス

(九) 獨逸造船業ノ状態ニ付テハ未タ詳細ヲ知ルヲ得サルモ各種ノ報道ヲ綜合スレハ獨逸ノ造船所ハ一九一三年ニ於テハ十八箇ノ大會社アリテ公稱資本四百九萬磅ナリシモ一九一九年ニハ會社數ハ三十二増加シ資本額亦八百萬磅ニ倍加セルヨリ見レハ相當成績ヲ擧ケツツアルモノノ如キモ其鐵鋼ノ產出額カ戰前ニ比シ約六割ヲ減セルコトハ造船業ノ復興ニ影響スル所大ナルモノアリ「エコノミスト」誌ノ如キモ獨逸カ中立國ノ爲メ噸十八磅ニテ造船ヲ引受ル由ヲ傳フルモ疑ハシト爲シ「グラスゴウ、ヘラルド」誌ノ獨逸造船所ヨリ受ケタル回答ニ依レハ多クハ進水船無シト答ヘ只三會社カ七隻三千百十七噸ノ造船ヲ報シ來レルニ過キス

(十) 瑞典ニ付テハ(七)ニ於テモ併セ説明シタルカ戰前ニ於テハ小型船ヲ建造スルニ過キサリシヲ以テ一萬五千噸ニ過キサリシモ大戰以來漸ク大型船ヲモ建造スルニ至リ從テ造船所ノ擴張新設セルモノ頗ル多ク本年中モ引續キ繁忙ヲ極メ造船高五萬噸ヲ超過セリ

(十一) 支那ニ於テモ米國資本ニ依リ造船業勃興シ現ニ上海ニ於テ諾威、英國其他諸國ノ爲メ汽船建造中



### 第四節 海員ノ狀況

本年度ニ於ケル主要海運國ノ海員ノ狀況ニ付テハ尙報道ニ乏シキヲ以テ姑ク北米合衆國ニ付テ見ルニ同國ニ於テハ大正七年ニ於テ九百二十九隻三百三萬三千噸大正八年ニ於テ千五十一隻四百七萬五千噸ノ進水ヲ見タルモ此ノ如キ多數ノ船舶ニ對シテ短日月ノ間ニ能ク船員ヲ補給シ得ルヤニ關シテハ大ニ疑懼セラレシ所ナリシカ今日迄ニ船舶院ノ公表セル所ニ據レハ大正七年一月以來大正八年六月十五日迄ニ左ノ如ク合計約二萬四千人ノ海員ハ船舶院ニ依リ補給セラレタリ

甲 板 部(水夫)	九、五二三
機 關 部(火夫)	九、〇五三
割 烹 部(司厨)	五、三三三
合 計	二三、九〇九

船舶院ハ船員ノ養成ニ付テハ多數ノ商船學校ヲ創設シテ此ニ當リタルカ大正八年五月ニ於テ二十六學級存シ九百三十二人ノ學生ノ登校ヲ見タルカ大正七年九月ニハ出席學生數實ニ千六百三十四人ニ達シタリ今大正六年六月四日以來大正八年六月十五日迄ノ卒業生ヲ見ルニ左ノ如シ

航海學校	四、五九一人
------	--------

機關學校	五、一七一人
合 計	九、七六二人

尙「タービン」船ノ機關長ニ付テハ特別ナル養成機關ヲ設ケ又船員ノ需給ヲ調節スル爲メ海員紹介所ヲ設ケタリ、船舶院カ紹介セル海員數大正七年十一月迄ニ一萬八千七百四十八人同月ヨリ大正八年五月迄ニ一萬一千六百七十三人ニ達シ大正八年五月「ボストン」港ニ於ケル調査ニ依レハ其船舶乘組員ノ六割四分ハ船舶院ノ紹介ニ係ルト謂フ、又前記紹介海員ノ四割三分ハ沿岸航路ニ從事シ遠洋航路ニ從事セル者ハ五割七分ニシテ之ヲ國籍別ニ見ルニ戰前ニ於テハ米國船乘組員ノ七割ハ外國人ナリシモ大正七年五月ニ於テハ米國人ハ船舶院ノ紹介セル海員ノ六割五分七厘ヲ占ムルニ至レリ、今一九一九年十月末現在ニ於テ海技免狀ヲ有スル米國船員ノ種別及員數ヲ示セハ左ノ如シ

船 長	六、七〇七人
機 關 長	九、七二二人
一等機關士	三、五六五人
二等機關士	五、三八一人
三等機關士	四、七八五人
一等運轉士	三、一八〇人



二等運轉士 四、七二七人  
 三等運轉士 三、九五八人  
 合計 四二、〇二五人

次ニ炭價ト共ニ運航費ノ要素ヲ爲ス船員ノ給料ハ各國海運業ノ競争力ヲ知ルニ必要ナルカ太平洋海運諸會社ノ上院商業委員會ニ陳述セル所ニ依レハ太平洋就航ノ米國船ハ日本船ノ約三倍ニ當ル船員給料ヲ支出シ其乘組員數モ一萬二千噸型ノ船舶ニ付テ甲板部ノ米船十三人英船十四人日本船二十人機關部米船二十一人英船十六人日船三十三人トナセルカ果シテ如何ナル程度ニ於テ信憑スヘキヤ疑ハシト雖モ日英米三國ノ船員ノ能率ノ一班ヲ見ルヘク本年上半期ニ於ケル調査ニ於テモ甲板部及機關部ヲ通シ日本船百九十六人ニ對シ米船百三十六人英船百二十九人ノ比ナリ

左ニ參考ノ爲メ各國船員ノ給料及乘組員數ニ關スル統計ノ二三ヲ轉載スヘシ

一、日、英、米、三國海員給料比較表

高級海員給料	日	英	米
	一七〇二	七〇六四	一四八七五

三、五〇〇噸ニ近キ汽船	下級海員給料			七、五〇〇噸ニ近キ汽船	下級海員給料		
	甲 板 部	機 關 部	事 務 部		甲 板 部	機 關 部	事 務 部
合計	五三	六四	二七	合計	一九五	二五	三二〇
甲 板 部	五九、〇〇〇	四五、二五〇	二九、二二	甲 板 部	八〇、六〇〇	二五、一三三	三、四五、一五〇
機 關 部	七〇、九二四	九一、二五四	三九、三八二	機 關 部	七〇、九二四	九一、二五四	一、六、二二
事 務 部	七二	九八	三七	事 務 部	七二	九八	八、五〇〇
合計	三六〇	三三〇	三六〇	合計	三六〇	三三〇	四、四、六二五

二、下級海員乘組員數比較表

船 型	日 甲 部		英 板 部		米 部		日 機 關 部		英 米 部	
	重量噸	同	重量噸	同	重量噸	同	重量噸	同	重量噸	同
三、五〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇
二五	三三	二五	三三	二五	三三	二五	三三	二五	三三	二五







甲	見	ボ	火	油	火	石
板	習	イ	夫	差	夫	炭
水	夫	夫	夫	夫	夫	夫
一四一〇	一					
三〇〇	一八〇	一五〇	三三五	三三五	三六〇	三三〇
四二七	三三七—三四三	三二二	五二〇	四四七	四四二	四〇五
六三〇	四一五	三五〇	八六六—二八八	六八五	六六五	五二五
四七二七	四五三三	六〇〇〇	四一五三	四〇七四〇	四一五三	四二五

第五節 海上保險

休戰條約成立以來戰爭危險全ク其跡ヲ絶テ敷設水雷ノ災禍亦各國海軍ノ掃海ニ努メタル結果減少スルニ至リタルヲ以テ各國政府ハ齊シク戰時海上保險ニ關スル施設ヲ改メタリ即英國ニ於テハ大正七年十二月九日以來原則トシテ政府ノ引受ヲ停止シ只特ニ危險多大ナルカ保險金額巨額ナル場合ニ於テノミ引受ル事トセルカ本年一月末以來全然廢止スルニ至リ米伊兩國モ相次テ新契約引受ヲ停止シ佛國亦本年十月二十四日限リ其制度ヲ廢止セルカ敷設水雷ノ災禍ハ獨逸行航路ノ再開ヲ見ルヤ「バルチック」海方面向船舶ノ遭難スルモノ續出スルニ至リ一時保險界ヲ驚愕セシメタリ、此ノ如クシテ本年ニ於テハ從來保險會社ノ收益ノ要素

タリシ戰時保險料ノ收入皆無トナレルニ反シ英國ニ於ケル内外保險會社ノ競争漸ク激甚トナリタルヲ以テ保險料ハ五志ナリシモノ年初二志六片ニ半減シ更ニ一志六片、一志三片一志ニ漸減シ汽船ノ期間保險料ノミ協定ノ成立ニ依リ十二月五志ヲ維持セル有様ナルカ英國ニ於テハ船價竝ニ一般物價騰貴セルト上半期ノ災害少數ナリシトニ依リ保險會社ノ激增ニ拘ラス各社共相當ノ利益ヲ收メタリ、尤モ一方船舶酷使ニ基ク損害、修繕費ノ暴騰、荷役遲延ニ基ク航海度數ノ減少、荷造不完全ニ因ル海損ノ増加、火災盜難ノ激增等保險會社ニ對シ不利益ナル幾多ノ事情ヲ生シ英佛保險會社ハ特別保險料ヲ徵スルニ非レハ盜難ヲ引受サルニ至リタルカ獨リ船舶ノ衝突ノミハ戰時ニ於ケル燈火使用制限ノ廢止ヲ見タルヲ以テ減少シタリ英國ニ於テハ「ロイド」組合加入者漸次増加シタルモ然ラサルモノモ激增シ毎月約二社ノ割合ヲ以テ海上保險會社新設セラレ合社ノ合併亦旺ンニ行ハレテ「ロイド」非「ロイド」相對立スルニ至レリ又再保險會社勃興セシカ右ハ戰前再保險ヲ營メル獨乙諸會社ノ勢力失遂セルト戰時中禁止セラレタル民間保險會社ノ再保險引受ノ四月以後自由トナレルニ因ルモノナリ、尙共同引受保險證券ハ在來「ロイド」ニ限ラレタルモ近時他社ニ於テモ此方法ニ依リ數會社連帶シテ引受ルモノヲ見ルニ至レリ次ニ米國ニ於テハ「ハーレー」氏米國保險業者カ英國保險會社ノ勢力ノ下ニ置カレ英米兩國船ニ差別的取扱ヲ爲シ米國船ニ對シ高率ノ保險料ヲ徵スルコトヲ攻撃シテ米國保險會社ノ勃興ヲ説キタル結果米國會社以



外ノ外國保險會社ニ付保シタル場合ニハ保險證券ニ對シ總保險料ノ三%ノ印紙稅ヲ課スルコトシ又米國保險會社カ其引受ヲ他ニ再保險ニ付スルコトヲ制限スル等保護政策講セラルルニ至リ海上保險會社ノ新設一層旺トナリ又火災保險會社ノ多數海上保險兼營ヲ見タルヲ以テ英國會社トノ競爭漸ク激甚ナラントス尤モ米國ニ於テハ大湖船行船ヲ航洋船ニ代用セルノミナラス木船ノ多數ナルト船員ノ無經驗ナルトニ因リ災害比較的多數ナリシカ倫敦市場ニモ米國保險會社ノ侵入ヲ見ルニ至リ爲替相場ノ變動ニ應シ從來磅建ナリシ保險金及保險料ヲ弗建ニ改メタリ

其他「スカンデナヴィヤ」諸國ハ戰前獨逸保險會社ノ勢力ノ下ニ在リタルカ戰爭以來諾威、瑞典、丁抹等ニ新海上保險會社勃興シ倫敦ニ支店ヲ設ケテ英會社ト競爭スルモノヲ生スルニ至リ希臘、佛國ニモ多數新會社設立セラレ今ヤ世界ノ海上保險會社數ハ戰前ニ比シ約五倍ニ達セリ、然レトモ佛、伊、和蘭等ノ諸國ハ尙自國保險會社充分ナラスシテ依然船體保險ノ大部分ヲ倫敦ニ於テ契約スルノ實況ナリ

## 第二章 本邦海運ノ概況

### 第一節 總 說

大正八年ハ平和第一年トシテ社會各方面ニ於ケル一大轉期ヲ醸生セシカ我海運界モ亦此影響ヲ受ケ戰時中ニ比シ著シキ變化ヲ見タリ即各國ニ於ケル輸出入禁止ハ漸次解除セラレ船舶管理亦幾分其緩和ヲ見タルモ貿易並船腹ノ狀況ハ尙未タ常態ニ復スルニ至ラス從ツテ各國ニ於ケル物資ノ缺乏ハ再ヒ一部ノ輸出入制限ノ復活トナリ歐州向船腹ノ需要激増ヲ來スニ及ヒ休戰後一時英米兩國ノ運賃引下ト各方面出貨ノ激減トニ因リ甚シク攪亂セラレタル我海運市場モ五月以來漸ク一陽來復ノ機運ニ向ヘリ然レ共元來此好況タルヤ歐洲產業回復ノ結果ニ非スシテ食料品及原料品ノ輸送並ニ英國船舶管理繼續ノ結果ナルヲ以テ歐洲向食料品ノ輸送一段落ヲ告ケ爲替相場ノ逆調カ貿易ヲ阻碍スルニ至ルヤ我海運界ハ其影響ヲ蒙リ十月以來再ヒ沈靜ニ向ヒ殊ニ英國ノ食料政策及米國ノ石炭坑夫罷工ハ歐洲方面ノ航運ヲ甚シク不安ナラシメタリ而シテ國內ニ於テハ物價ハ益昂騰シ中ニハ輸出品ニシテ本邦市價ノ外國市價ヨリモ高位ニアルモノヲ生スルニ至レルト外國ニ於ケル我物資ノ「ストック」多量ナルトハ相俟ツテ我輸出ヲ困難ナラシメタルニ反シ戰時中ヨリノ内地企業ノ勃興ハ各國ノ輸出解禁ニ伴ヒ我國ノ輸入ヲ激増セシメ久シク輸出超過ヲ誇リタル我



海外貿易モ終ニ輸入超過ノ現象ヲ呈シ此間獨リ米國ノ一般購買力増進カ對米貿易ヲ促進スルアリテ幾分輸入超過ヲ緩和スルノ實況ナリ

故ニ本年ノ我海運界ハ幾多ノ變化ニ富ミ休戰以來ノ不況ヲ受ケ新年ニ入ルヤ各方面出貨激減セルニ拘ラス外國船舶ノ來航漸ク其數ヲ増シ加フルニ米國船舶院ノ賃率引下ト英國船ノ切崩シトノ爲メ運賃暴落シ更ニ米國ヘノ提供船カ其任務ヲ果シテ續々内地ニ歸還シ加フルニ新造船ノ相次テ竣工スルニ及ヒ益々船腹ノ過剩ヲ來シ二月既ニ大型ニシテ用途ノ確定セサルモノ十五萬噸ト稱ヘ個人船主中ニハ事實上繫船スル者ヲ生スルニ至リタルカ政府當局ニ於テモ最早戰時ニ於ケル如キ船舶管理ノ必要減シタルニ願ミ管理令ノ運用ニ手心ヲ加ヘ或ハ外國諸港間航行ノ手續ヲ簡略ニシ或ハ對外賣船ヲ容易ナラシメタルノミナラス國際汽船會社ノ成立ニ對シテ可及的援助ヲ與ヘ更ニ進ンテ近海航路ノ擴張ヲ斷行シテ船舶航行ノ範圍ヲ擴大スル等機宜ノ救濟手段ヲ講スルコトヲ怠ラサリシカ五六月以來歐洲向食料品輸送船腹ノ需要激増シ歐洲行備船契約旺ンニ行ハレ大型船舶ノ同方面ニ就航スルモノ簇出スルニ及ヒ各方面ノ荷動頗ル活潑トナリ一時七圓臺ニ低落セル大型備船料モ約二十圓ニ復シ歐洲航路片途二十六七圓ヲ唱フルノ好況ヲ呈スルニ至レリ、然ルニ歐洲向食料品輸送一段落ヲ告ケ北米方面ニ於テ所謂船鐵交換船ノ續々出帆シ米國船舶院船ノ來航増加スルニ及ヒ俄然船腹過剩ヲ來シ十月以來各方面トモ一般ニ不況ノ裡ニ本年ヲ終レリ

## 第二節 主要航路ノ狀況

### 第一 貿易概況

主要航路ノ狀況ヲ述ルニ先チ本年ノ我國貿易狀況ヲ瞥見スルニ戰時ニ於テ異常ノ發達ヲ遂ケタル輸出貿易ハ交戰國ノ軍需品ノ需要止ミ中立國殊ニ東洋南洋諸國ニ於テ戰時中歐州品ニ代用セラレタル我物資カ漸次減少スルト共ニ漸ク不振トナリタルニ反シ輸入貿易ニ於テハ國內企業ノ勃興ニ際シ適々海外ニ於テ輸出解禁、船腹緩和ヲ見タルヲ以テ原料品及機械類ノ入貨頗ル多ク殊ニ紡績業ノ好況ニ伴ヒ棉花ノ輸入激増シ又米價騰貴ノ影響トシテ食料品及肥料ノ輸入増加シタル結果再ヒ輸入超過ノ狀態ニ復シ上半期ハ大體輸出ニ比シ輸入増加ヲ示シタリ然ルニ六月以來生絲ノ絲價昂騰シ對北米貿易股販トナリ下半年ハ九月ヲ除ク外輸出超過ニ戻リタルモ結局本年ヲ通シ七千四百萬圓ノ入超ニ終リ大正四年以來初メテノ輸入超過ヲ示セリ今之ヲ各方面ニ付テ觀ルニ歐洲方面ハ輸出減少輸入増加ノ大勢ノ代表的ナルモノニシテ南洋、南阿兩方面モ亦同様ニシテ南米及印度方面ニ至リテハ輸出入共ニ減少セルカ獨リ北米方面ハ輸出入共ニ増加スルノ好況ヲ呈シ我貿易ノ順逆ハ一ニ對米貿易ノ消長ニ繫ルノ觀アリ、今ヤ内地ノ購買力激増シタル結果物價ノ暴騰ト企業ノ勃興ヲ招致セルヲ以テ一方ニ於テハ輸出ヲ困難ナラシメ地方ニ於テハ輸入ノ漸増ヲ來セルハ經濟上自然ノ趨勢ナリト謂ハサルヘカラス左ニ最近三箇年間ニ於ケル本邦輸出入貿易額ヲ每月別ニ示サン

(大藏省調査)



一、輸出ノ部

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	合	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計	
九八、九六一、一〇三	九三、四五五、五八一	一二五、三〇七、五〇八	一三〇、七六一、二五四	一四五、八九二、七三五	一一四、一四一、四五九	一三八、七八五、四七八	一三七、四八七、三八七	一五六、一一一、九一三	一四七、二四六、一九一	一五一、五三〇、一四八	一六三、三二四、二九一	一、六〇三、〇〇五、〇四八
一〇六、二四一、六〇九	一三〇、四〇一、九九二	一六〇、六三二、四六一	一五七、〇四九、四五六	一九八、六一二、七三五	一四三、九八四、四七二	一三六、一五四、八九九	一六五、七六一、三一六	一八五、八八六、六四〇	一八六、七四〇、八〇九	一八二、七七〇、五七四	二〇七、八六三、七〇五	一、九六二、一〇〇、六六八
一一七、八六一、六九九	一二五、六一九、九三八	一三三、七〇五、二〇四	一四二、一八七、七四〇	一五六、八八七、一三三	一五一、一五八、〇四三	一八一、二八九、五六三	一九六、二二二、二五二	一七二、六六一、四三八	二二五、六八二、六八五	二一八、六一四、〇三六	二七六、九八一、八八七	二、〇九八、八七二、六一七

二、輸入ノ部

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	合	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計	
六九、〇八〇、三九六	七四、九〇三、八五〇	八二、四一三、二四二	六二、五七七、二二四	七四、三二五、二二一	八四、六五八、三四九	七七、七三五、一二四	七二、五一八、八〇一	一〇二、二一七、二二三	九七、五六五、九一五	一〇七、四三六、一九三	一三〇、三八九、五六〇	一、〇三五、八一、一〇七
一一五、七〇三、八六九	一二六、五〇八、七三三	一四八、三一二、六五五	一六二、六三三、六三七	一四四、二三四、一四六	一四二、四八九、〇九四	一三四、〇六三、四七七	一一九、二六一、一二七	一三二、七六二、一〇二	一二六、一六二、六八五	一五二、二五二、七〇一	一六三、七五九、六〇七	一、六六八、一四三、八三三
一三八、六七六、六九三	一七〇、五四二、八八四	一六九、九一八、五二三	二〇八、〇〇三、六六九	一八六、〇〇七、八三一	一七六、二二〇、四三二	一四四、五六七、四九五	一九四、六七七、二二九	一九六、六二〇、四一四	一七九、七九〇、二八四	一八三、三〇〇、七八九	二二五、一三三、六三七	二、一七三、四五九、八八〇



第一對歐洲貿易  
一、輸出ノ部

合	計										大正六年	大正七年	大正八年
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十			
二	二	一									二一,四六三,二〇七	一五,五八三,三五七	一八,八五九,七九九
一	一										一五,四五四,六九〇	二二,〇一四,五一八	一六,三五五,三九七
											三二,五四六,六三六	三三,〇〇八,九四九	九,六五九,〇〇八
											三一,七二三,七五七	二九,七二二,九六七	七,〇三七,八四三
											三五,五一四,三三八	三〇,二三〇,一八九	一一,三三七,四七五
											二〇,九九四,九二九	二一,〇〇三,一九〇	一〇,一三八,九四九
											三七,四〇六,〇九一	一一,八五一,一〇三	一七,一五三,二二五
											一九,九二七,八一〇	二一,五八三,二三三	二〇,一九四,〇〇一
											二八,六一七,六四〇	一九,二七八,二四八	一九,一〇二,五一七
											二一,三四八,五三九	二三,九四一,四三三	一七,六四六,七五八
											二九,〇九一,一五二	二七,〇一六,七三三	一九,一二六,〇八一
											四一,一〇三,七三一	四二,〇二二,五九八	二八,三四一,六七四
計											三三五,一八二,五二〇	二九八,二五六,五一八	一九四,八五二,七二七

二、輸入ノ部

合	計										大正六年	大正七年	大正八年
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十			
一	一										五,七六二,三二五	六,〇三三,六二一	六,七二八,九三六
二	二										七,四四一,一五五	七,六二三,二〇七	九,七五三,七四二
三											八,九七七,三四七	七,一七六,〇九五	一一,二五八,三三二
四											六,七九一,九〇五	六,五五六,〇九五	一三,六〇二,三一五
五											六,四七四,七九五	六,二五三,六六五	一五,〇二五,一六〇
六											四,七七四,三四三	五,五五七,四六一	八,八八三,五〇六
七											五,七八一,二五五	五,九一三,〇〇〇	一〇,一九〇,一一八
八											五,五三一,六九一	六,一二七,一〇五	一四,九二二,〇四七
九											八,〇一八,六八六	八,六二九,二七八	一一,〇四二,一六八
十											七,七〇三,六六七	七,六九五,一八九	一六,三一一,八三六
十一月											六,二七七,九四三	七,五二四,六四三	一八,三一二,九八三
十二月											八,六四〇,九九七	七,六九七,四九一	二五,九三八,四九八
合											八二,一七六,一〇九	八二,七八六,八五〇	一六二,九六九,六四一



第二、對北米大陸及布哇貿易  
一、輸入ノ部

合	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
計	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五〇一、一三七、八三七	五〇〇、六九九、五四一	四一、六六六、八一六	五〇、七九七、九五六	五四、三八四、四五八	五六、四四六、一九四	四四、九九五、〇九二	三〇、三一一、二九六	四一、九七二、三七九	三九、〇五五、二一三	二八、七三八、〇三〇	二九、四〇三、八八三	三三、二九六、九七九
五六五、一九四、二五二	四八、四七八、九五八	四〇、一一八、九九〇	四一、一九六、五四二	六六、一七一、八五八	六〇、七七〇、五七四	三九、七五一、二八四	三六、三七五、七一	七一、〇八九、五一八	五三、八三一、七四二	四三、六五二、七五八	三六、八五八、七三八	二六、八九七、五七九
八六四、五五一、七四〇	一三七、五九九、二八五	九三、一八三、三四九	一一〇、一〇八、二九九	八二、三七七、三九六	九七、六一六、五七九	七七、二八六、四六九	六七、〇七六、三五六	六〇、三〇二、七一九	五〇、四〇七、〇〇二	三三、九二九、九四三	三一、六四六、三二四	二三、〇一八、〇一九

二、輸入ノ部

合	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
計	月	年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三六二、五二〇、八八三	四三、八二八、九〇二	四一、三四六、〇三三	三四、五〇六、三一九	三九、七八一、二七八	二七、七二五、五九七	二四、〇二六、五九二	二五、八〇六、〇五九	二六、〇一〇、九二一	二〇、六七四、五七九	二七、六六二、三三〇	三二、二一〇、一七七	一八、九四一、七〇六
六三三、八六九、八六六	五九、二八六、七二一	四二、六一三、〇三八	四五、一〇八、六三一	四〇、〇一四、八七二	四五、六五六、二五六	五二、九四六、四九七	五三、五〇二、三七五	六〇、五八二、四一一	七〇、七六八、三八七	六七、七八四、五一八	五三、七八六、一四七	四一、八二〇、〇一三
七七三、五六六、〇八九	七八、一七七、七六〇	六〇、六六一、三八九	五〇、四五一、三九一	六一、五二九、四九四	六〇、二四一、三四四	五〇、一一七、二四四	六九、八一七、八〇九	六九、四〇三、二二二	九九、〇九七、五三〇	六六、三一七、一一四	五八、九九〇、一六二	四八、七六一、六二〇



第三、對墨國及南米大陸貿易  
一、輸出ノ部

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
三〇四、六一三	一四一、〇一六	七七三、六〇一	二四八、八六九	五一二、〇六〇	六九三、五三六	六八三、〇九二	二二二、三一六	二、一四一、七三〇	四〇五、九九六	七、七四七、七七一
九七六、八五〇	一、三五五、七三二	一、八四四、五三三	八八三、六五五	二、六〇〇、九六五	一、一〇七、五四六	四、一一五、五六五	二、七三六、一一二	六、四五八、八〇八	六、一八六、七三七	三八、九四九、五二七
五、〇〇〇、八七五	六七二、四五四	二、四八一、五九〇	一、一一五、〇九六	一、五一九、七二九	一、〇一一、八四〇	一、七六九、七三三	一、二九二、三四三	一、五二二、六三二	一、六二六、三七二	二一、九八五、五四九

二、輸入ノ部

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
一、一五六、四一七	二二〇、〇三八	一、六〇二、六三二	四三一、八二七	八三〇、〇九二	三、八五八、三二一	一六四、四六一	一、〇三八、六七二	二四五一、九四八	五三四、六七一	一四、五一四、二二三
七六六、九八八	三、五三一、六〇九	一、六一三、二七七	三、六八一、五七一	二、八六三、〇八三	一、二二二、四七九	七〇八、八一〇	二九二、九三四	三、〇〇八、八一三	八二七、七四四	二〇、九二三、一四八
一四二〇、七五七	二、四五九、四五〇	一、四五九、三一四	一、四五九、九六七	一、二七七、八四九	三、三五四、六四二	九一三、二七四	一、〇〇九、三三〇	六七八、六一四	一、九二八、六一一	一八、三六一、二一三



第四 對濠洲貿易  
一、輸出ノ部

合	計											大正六年	大正七年	大正八年																								
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一月				十二月																							
一,二三五,三二四	一,五九三,八三九	一,二九〇,七〇九	一,五四九,三五二	二,〇七五,八五六	二,九四三,五九五	一,七八五,八九九	一,七八一,四二七	二,九九二,六〇九	二,九五三,〇五四	二,二五二,三二四	三,八三五,一五六	二七,二八九,一四四	三,二四三,四〇四	三,〇〇七,一〇九	三,八四一,一九二	三,一九八,五六七	五,九三一,三〇五	七,六四七,六九二	七,〇五八,一八四	五,六七三,二五五	五,七五六,四〇一	六,四八四,二三九	六,四六八,二九一	六,七九六,二〇四	六五,一〇五,八四三	三,二五六,三五五	二,八七一,九七九	二,六〇四,一四六	二,〇六四,三三九	二,五九七,六一六	二,一五六,九六三	一,五二五,七五四	一,七七三,〇五三	二,四六九,一五一	二,四九〇,七三八	三,二〇六,七八〇	三,八〇八,七八四	三〇,八二五,六五八

二、輸入ノ部

合	計											大正六年	大正七年	大正八年																								
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一月				十二月																							
八,六九四,一五四	二,九一五,九六三	二,五五四,六四二	二,八七九,五五一	一,九八三,二七四	一,六三三,三五四	二,六一五,三九四	一,二四二,四四四	二,八三二,九〇七	一,二四九,一九五	一,八六二,二三六	二,五九〇,五八八	三二,九三四,五〇二	一,七七七,一四四	一,四九六,一六六	四,二九四,三〇五	一,五九五,五二一	二,七七九,五七八	五,九七〇,一七九	六,二五七,九二九	六,四一一,一九七	七,八八一,三三六	四,一四一,九八八	一,八一四,九二一	四,四五四,一一四	四八,八七四,三七八	二,三四九,八七五	六,五四五,〇一〇	一,九五二,二九二	三,九四六,〇七七	二,四三四,五九四	一,八五三,九二五	四,二四三,八一七	四,八九三,七六八	九,〇〇一,八一	九,九六九,三二九	四,六一五,八〇八	四,八三〇,〇〇一	五六,六三五,三〇七



第五對英領印度貿易

一、輸出ノ部

合	計										大正六年	大正七年	大正八年
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十			
一	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	六六〇四,二〇一	一一,五七五,一〇三	九,七〇二,二七二
二	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	七,五〇一,九九一	一四,三二四,三五三	八,七三三,一二三
三	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	九,一二三,〇七一	一一,一三三,五九四	八,〇七八,九〇二
四	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	七,二〇一,三一一	一二,二一一,九八五	六,三六三,八九〇
五	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	六,九一九,九五九	一七,九四二,八六八	五,八六一,八六九
六	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	八,三〇七,九三六	一七,五〇四,〇四七	八,七二九,四二八
七	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	七,九〇〇,四二四	一七,六四七,一九三	一一,五六九,四四五
八	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	五,四三一,六四〇	一九,三七〇,八三八	一〇,七八七,二五四
九	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	九,五四二,八八八	二〇,二二一,二七二	一〇,一七八,三三二
十	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	八,八五三,〇五一	二二,六〇二,一四八	一一,九六一,六〇七
十一	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	八,八八六,五一四	一九,四三二,九七八	一一,三〇一,八五五
十二	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一五,〇二五,四五四	一八,五五五,九〇〇	一一,六一〇,七六二
合計	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一〇一,二九八,四四〇	二〇二,五二二,二七九	一一六,八七八,七二九

二、輸入ノ部

合	計										大正六年	大正七年	大正八年
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十			
一	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一五,一七九,三一四	二七,四一五,九二七	七,五七六,一一八
二	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一六,五三四,五五三	二二,三九一,五〇八	二四,二二八,四五二
三	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一九,三三四,一二九	二八,一一一,八五〇	二〇,三八四,九九四
四	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一一,七七九,二二三	三四,四八〇,二四二	二九,四七四,五九九
五	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一五,五三三,二二八	三一,四四六,〇七三	三三,九一二,六二九
六	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	二一,八四六,六五八	二八,五〇二,八九六	二四,八九五,三九八
七	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	二一,五七三,〇四二	二四,五〇〇,八四二	一一,九一三,五六二
八	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一二,七五六,六六二	一四,八八六,四三三	三二,四三四,七二二
九	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一八,七〇三,六六五	一九,八三二,六二一	四一,一五〇,六二三
十	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	二五,九八一,二四四	一三,〇〇五,五六三	三四,五七〇,三三一
十一	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	一七,三九五,八〇六	一四,〇四〇,一八一	二九,〇〇五,四一六
十二	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	二七,三二三,七八〇	八,〇四七,四七五	二九,九三〇,七〇七
合計	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	二二三,九四一,三〇四	二六八,一八五,一八五	三一九,四七七,五六一



第六、對蘭領印度貿易  
一、輸出ノ部

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	
大正六年	一、三三、七一四	一、六六、九九三	一、八一、六九八	二、四一、六〇八	三、九三、五〇八	三、一八、一五六	三、九八、三一二	三、二一、三六八	四、四〇、三八七	三、三三、七五六	二、八九、三〇三	三六、二四五、三四〇
大正七年	四、三七、三三九	二、九六、九六三	五、二一、〇七八	四、五二、八一五	五、六三、三九一	七、七〇、二五三	一、一九、六三一	六、八一、七八五	六、一一、一八九	七、二七、〇七〇	五、四五、三四四	七、一六、七七、五三一
大正八年	二、七九、六〇二	二、九一、〇五七	四、四一、四八九	四、二一、五〇二	四、三九、八三三	三、四七、九二九	三、九四、九七二	四、四四、四六一	四、九四、三六六	五、〇八、八六二	八、三七、〇二〇	八、一五、〇八〇
計	二、七九、六〇二	二、九一、〇五七	四、四一、四八九	四、二一、五〇二	四、三九、八三三	三、四七、九二九	三、九四、九七二	四、四四、四六一	四、九四、三六六	五、〇八、八六二	八、三七、〇二〇	八、一五、〇八〇

二、輸入ノ部

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	
大正六年	六二、二、二五〇	九三、五、三六一	八九、一、六九六	七二、七、〇九三	六六、六、八四二	五八、八、二九四	七四、四、九六六	二、一四、一、七五〇	二、五〇、〇、二七三	二、〇七、五、六四二	二、七九、二、〇〇六	二、六六、〇、七二七
大正七年	二、四七、八、八五七	二、五八、七、七二九	一、一六、七、八八九	二、三八、八、三四三	二、一九、二、四五八	三、二四、七、六九二	三、四〇、二、五九二	五、七七、〇、五五四	六、一六、九、九〇一	六、六二、八、五二六	五、四七、三、一六七	七、三二、九、四九〇
大正八年	五、三四、四、六四一	五、四三、八、六〇二	四、四四、七、二〇八	三、四四、八、七八二	三、八五、四、三八三	三、九〇、九、四九二	六、〇二、四、四六八	七、四三、一、七〇〇	四、二六、五、九七七	四、四九、八、三三〇	八、〇六、四、二九七	八、七九、四、六二〇
計	五、三四、四、六四一	五、四三、八、六〇二	四、四四、七、二〇八	三、四四、八、七八二	三、八五、四、三八三	三、九〇、九、四九二	六、〇二、四、四六八	七、四三、一、七〇〇	四、二六、五、九七七	四、四九、八、三三〇	八、〇六、四、二九七	八、七九、四、六二〇







第八、對露領亞細亞貿易

一、輸出ノ部

合 計	大正六年											大正七年											大正八年															
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二		
七四,二三四一四五	四,五〇九,一六四	五,一七三,四四一	七,八九八,〇〇四	七,一六一,五四四	九,四四一,五三二	九,九〇七,一二一	六,四七一,六五二	六,五三八,一六一	六,九五三,六七三	三,九一九,二一五	三,五四三,三六九	二,七二七,二六九	九三三,五二九	七,七七九,九二二	七〇,四四六〇	五六一,九三五	二,四七二,九一九	三,八八五,四一二	二,三三五,五八六	一,四九二,六一〇	一,九五六,一七六	四,七〇五,一一〇	六,九四四,四五四	一三,二七六,六三一	四〇,〇五六,七四四	三,四三一,三八六	五,七二六,四〇七	一〇,二八三,七九九	七,六三三,〇二八	五,八五八,八九二	六,一九五,三三五	五,一六二,四八四	六,九六一,二〇五	二,六三五,九〇七	四,六六三,三二二	六,九四八,九二一	五,四六七,一八四	七〇,九五八,二六一

二、輸入ノ部

合 計	大正六年											大正七年											大正八年															
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二		
三,七五五,二八一	八九,九七五	三一,六三九	一一七,一二四	一〇八,六七四	二二六,七七九	二三九,四八三	七四一,二二〇	二五九,五五〇	五三〇,五三六	九三二,三二九	二〇〇,一四〇	二七七,八三二	一一七,五三〇	一六〇,三三七	二六四,七一九	六三三,四三八	四四六,五三八	一四五,五一六	四三九,〇九三	三四六,八九八	六八八,九四八	三五七,一四七	二〇五,一四三	五六一,三一七	四三,六六六,六二四	一一三,三四六	二四三,〇一三	三八四,〇八九	二九七,七九三	六四九,六二二	三九四,六一五	六五八,五一一	三五二,二四三	四三三,八三二	三八四,八四三	五四四,七〇九	四六一,三六六	四,九二四,九八二



## 第二 歐洲航路

八六

歐洲各國ニ於テハ漸次輸出入制限ノ緩和ヲ見タリト雖モ産業回復ノ期尙遠ク加フルニ一般ニ前年以來ノ在荷モ比較的少量ナラサルカ如クナルヲ以テ當分本方面ニ對スル輸出貿易ハ恢復セス從ツテ舊臘來出貨少ク運賃益漸落歩調ヲ辿リ一般荷主ハ只管形勢觀望ノ形ニシテ一時般賑ヲ極メタル英國行豆澱粉等ノ引合モ極テ少量トナリ更ニ青筒、彼阿、佛國郵船等外國船ノ漸次配船ヲ増加シ運賃ヲ切崩スニ及ヒ英佛兩市場共ニ閑散ヲ極ムルニ至レリ

然ルニ三月ニ至リ對獨塊食料供給問題起リ且輸入制限更ニ緩和セララルヤ市況稍ヤ見直リ更ニ運賃安ニ刺戟セラレ食料品及原料品ノ荷動キ活潑トナリ遂ニ四月ヨリ十月ニ至ル迄ハ再ヒ黃金時代ヲ現出スルニ至レリ、即チ先ツ英國方面ヲ見ルニ日本内地ヨリハ油類ヲ始メ豆、澱粉、材木等ノ大口物、支那及南洋方面ヨリモ食料品ノ積出多キノミナラス輸入解禁ニ乘シ本邦ヨリ陶器、眞田、莫大小、鑽石ノ積出激増シ北歐再輸出ノ爲英國ニ向ケラルル食料品ト共ニ多量ヲ占メ又地中海方面ニ於テハ一時馬耳塞港混雜ノ爲メ同港行貨物ハ坡西士ニ山積シ我命令船ハ七月迄其寄港ヲ省略セルカ坡西士並ニ馬耳塞向出貨各地共夥シク般賑ヲ極メタルヲ以テ船腹頗ル窮迫シ郵船會社ノ如キ各地申込ノ二三割ヲ積載スルニ過キササル爲メ臨時船ヲ増發スルモ同盟船ノミニテハ船腹ノ不足甚シク遂ニ五月以來歐航同盟ハ同盟率以上課徴ノ條件ヲ以テ同盟外船積ヲモ許可スルニ至リタル實況ナルヲ以テ北米航路ニ輻輳セル社外船ハ大舉シテ此方面ニ蟬集スルノ盛況ヲ見タ

リ然レトモ此好況モ十月ニ入り漸次衰退ニ向ヒ英國方面ハ(1)對歐爲替相場ノ昂騰(2)英國ニ於ケル價格制限及(3)鐵道罷業ニ因ル英國各地ノ混雜等各種ノ原因ニ依リ日本各地ノ出荷減退セルモ罷業ノ解決ト共ニ十月下旬ヨリ市況回復ノ兆ヲ示シ一方油胡麻等ノ出廻期ニ會シタル爲メ再ヒ各地ノ出貨稍活況ヲ呈シタリ北歐方面ヘノ出貨ハ從來英國ヨリ再輸出セララルニ過キサリシモ九月以後漢堡行直輸出貨物出現シ始メタルヲ以テ久原及鈴木カ太陽、興福ノ兩船ヲ以テ瓜哇ヨリ「コブラ」數千噸ヲ積取リ獨逸向發船シタルヲ始メトシ戰後經營トシテ郵船會社ハ十月漢堡行第一船トシテ「デラゴア」丸ヲ配船シ更ニ十一月第二船龍野丸九十月第三船「だあばん丸」ヲ發航セシメ大阪商船會社亦十二月ニ入り第一船トシテ「あるぶす」丸ヲ配船スル等續々同方面ノ開航ヲ見タルモ同國國內金融機關ノ確立セサル爲メ未タ諸般ノ取引ハ健實ナル能ハス從ツテ出貨極メテ少シ

以上往航ノ狀況ヲ述ヘタルカ翻テ復航ノ狀況ニ付テ見ルニ歐洲各國何レモ産業ノ回復容易ナラス爲ニ東洋向出荷乏シク英國ニ於ケル鐵類輸出解禁及本邦企業物興ノ爲メ幾分鐵物、機械及雜貨類ノ出貨増加シタリシモ輕量品ノ出貨依然少ク又白國安土府ノ出貨ハ漸増ノ傾向ニシテ殊ニ硝子工業ノ回復比較的迅速ニシテ同製品ノ出廻リ多量ナルモ北歐方面ハ瑞典產「ウツドバルブ」ノ一部出貨ヲ見タルニ過キスシテ一般ニ往航ノ盛況ニ比シ不振ノ狀態ニ終レリ

本航路ニ付テ特筆スヘキハ(一)大阪商船會社カ幾多ノ曲折ヲ經テ一月二十二日開催ノ歐航同盟倫敦本部總



會ニ於テ其加入ヲ認容セラレシト(二)日本郵船會社カ英國西海岸積取ニ付青筒線ト圓滿ナル解決ヲ告ケ四週一回ノ約ニテ九月ヨリ實施スルニ至レルコトニテ我海運界ノ爲ニ慶賀スヘキコトナリトス

次ニ本航路運賃狀況ヲ觀ルニ一月以來下押ニシテ前年來臨時船ハ倫敦行澱粉八百志雜貨六百志ナリシモ二月以降ハ突込百五十志ニ引下ラレ契約運賃ニ於テモ莫大小ハ四百志ナリシヲ二月十一日發三島九ヨリ百二十志ニ引下ケ真田ニ付テモ四百五十志乃至五百五十志ナリシヲ同船ヨリ百二十志トセラレ更ニ四月ニ入り真田ハ九十五志乃至百二十志ニ莫大小ハ九十志九片ニ引下ラレ尙同盟側カ百志ベシスニ引下ケタルニ對シ郵船會社ニ於テモ同様引下ヲ行ヒタリ然レ共五月ニ入り運賃ハ漸騰シ各同盟ノ引上ヲ見タルヲ以テ郵船會社ニ於テモ幾度カ自由船率ノ引上ヲ行ヒ結局九月ヨリ百八十志ニ定メラレタリ反之命令船ニ於テハ僅ニ二月薄荷油(一四五志)樟腦(一五〇志)揮發油(一六〇志)ヲ共ニ百二十志ニ引下ケタル外變更ヲ見サリシカ

歐航同盟ニ於テハ豫テ郵船會社命令運賃ノ低率ニ失スル爲メ同盟他社ノ集貨困難ニシテ且ツ經營困難ナルヲ理由トシテ命令率引上方ヲ交渉シ來レルカ郵船會社ハ一ハ同盟殊ニ英國側ニ對スル和調ノ態度ノ緊要ナルニ願ミ一ハ經費増加ノ趨勢ニ順應センカ爲メ往航運賃率ヲ歐航同盟率百志ベシスノ二割増ニ又復航運賃ヲ命令率ノ二割増ニ引上方認可ヲ申請セリ政府ハ一面經費増加ノ趨勢ニ鑑ミ他面各國トノ協調ヲ願慮シ(一)右引上率實施ニ付テハ相當猶豫期間ヲ設クルコト及(二)往航運賃中負擔力ノ比較的弱キ數種ノ貨物ニ限リ特ニ低率ヲ課スルコトノ條件ノ下ニ大體之ヲ認可シタリ

又馬耳塞行貨物ニ對シテハ從來ノ慣行ニ從ヒ英國行運賃率ヲ適用スルコトトナレリ今往復航運賃ノ變動ヲ示セハ左ノ如シ

イ 往 航	標準	命 令 船					自 由 船 及 臨 時 船				
		一 月	十 月	一 月	二 月	五 月	七 月	十 月	一 月		
雜 貨	才 重	九〇.九	九〇.九	九〇.九	九〇.九	九〇.九	九〇.九	九〇.九	九〇.九	一八〇.〇	
木 材	才 重	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一九五.〇	
豆 油	才 重	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	二〇〇.〇	
大 豆	才 重	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	一三〇.〇	二五〇.〇	
雜 貨	才 重	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	九〇〇	
雜 貨	才 重	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	七〇〇	
同(馬耳塞積)	才 重	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	八五法乃至百法見當	七〇〇	



### 第三 北米航路

九〇

米國ニ於テハ急激ニ發達セル戰時工業ノ漸次平時工業ニ轉換セントスル再造整理ノ時代ニ入レル爲メ事業界著シク動搖シ經濟市場不活潑ナルニ加ヘテ商品ノ在荷多量ニシテ之ヲ消化スルニハ相當ノ時日ヲ要スルヲ以テ一般ニ先安ヲ見越シテ商談極メテ少ク更ニ労働者ノ勢力多大ナル米國ニ於テハ労働紛議ノ續出ヲ見事業界ヲシテ更ニ動搖セシメタリ從テ米國ニ於ケル輸入制限緩和セラレタルモ市場不振ノ爲メ商取引一般ニ手控セラレ油類、雜穀等ノ口物ノ引合ノ殆ト無キニ拘ラス社外船ノ幅狹、提供船ノ歸航及米國船舶院ノ配船ハ船腹ヲ過剩ナラシメ蒐貨困難ヲ來シ社外船中ニハ復航ヲ目的トシテ「バラスト」代リノ積荷ヲ辭セサルモノニ至リシカ四五月以來荷況漸ク回復シ生糸、雜貨ノ積出増加シ加フルニ本航大型船ノ歐洲方面轉航及米國鐵道運賃低下等ノ爲メ運賃ヲ昂騰セシメ夏期ニ於テハ船腹ノ窮迫ヲ來スニ至リシカ九月以後ハ花菱、眞田、玩具、生糸、製茶ノ出貨ハ依然夥シキモ雜穀、油類ノ米國市價却テ内地ヨリ低位ナル爲メ此種口物ノ出廻不振トナリ米國船ノ増加及交換船ノ就航ト相俟テ次第ニ沈靜トナリ生糸絹物ノ出荷ノミ盛況ヲ告ケ又支那方面ハ銀價ノ暴騰ノ爲メ輸出不振ヲ來シ更ニ又馬尼刺方面ハ麻ノ積出旺ナルモ船舶院船ハ低率ニテ獨占シタル姿ナリシヲ以テ各方面共沈靜ニ陥リ從テ太平洋岸及紐育共運賃漸落歩調ヲ辿リ加フルニ「アドミラル」線ヲ始メ多數米國船及交換船力運賃引下ヲ行ヒテ出荷爭奪ニ腐心セルカ爲メ一層不況裡ニ年ヲ送レリ

次ニ復航ヲ見ルニ米國輸出禁止緩和ノ爲メ鐵及棉花ノ契約荷物増加シ船舶院率ニ牽制セラレツ、好況ヲ呈シタルカ二月以降船舶院船ノ太平洋就航激増ト提供船ノ歸航トハ共ニ船腹ヲ潤澤ナラシメ滞貨ヲ一掃シ次第ニ不振ニ陥リタルカ五月米國ニ於テ太平洋岸行鐵道運賃ノ引下以來鐵物ノ積出増加シ一般品ノ出廻リモ良好トナリタルカ爲メ巴拿馬經由紐育線及船舶院船ノ運賃率ニ牽制セラレ來リシ太平洋岸運賃モ引上ヲ見ルニ至リシカ九月以降紐育及「ガルフ」諸港ヨリ東洋向社外船増加シ船舶院ノ發船モ亦益々其數ヲ加フルニ拘ラス一方荷況ヲ見ルニ鐵物等重量品ハ豐富ナルモ輕量品ハ數量乏シク殊ニ今季米棉收穫遲延セル爲メ出廻リ少ク十二月ニ入り漸ク順調トナレル狀況ニシテ沈靜裡ニ本年ヲ終レリ、尙七月紐育解人夫ノ罷業及十月、十一月兩月ノ紐育、桑港埠頭人夫ノ罷業ハ荷役ヲ遲延セシメ石炭抗夫ストライキニ基ク石炭供給不足ハ一般貨物鐵道輸送ヲ阻害シ海運界ニ甚シキ打撃ヲ與ヘタリ從テ其運賃率ヲ見ルニ休戰當時往航日本北米間三十弗ヲ唱ヘタルモノ一月ニハ十弗ニ暴落シ三月ニハ九弗ニ低落シ八月ニ至リテ初メテ十二弗ニ昂騰シ次テ九月ヨリ十四弗ニ騰貴セルモ再ヒ漸落歩調ヲ辿リ十一月十弗ニ下落シ十二月ニハ社外船中五六弗ヲ唱フルモノアリ十二月十二日以後郵商東洋三社船協定シ自由船臨時船共一般品目ニ對シ命令船率ヲ適用スルニ至レリ復航ニ於テモ同様低下ノ趨勢ニシテ三月自由船率ハ四十弗ヨリ一躍十五弗ニ引下ラレ更ニ四月ヨリ雜貨十四弗鐵物十二弗ニ引下ラレシカ十一月以後太平洋同盟各社ハ船舶院ノ曩ニ發表セル新率ヲ採用スルニ至レリ

本航路中命令船及自由船ヲ通シ荷主ト協定シ新ニ設定シタル運賃左ノ如シ

九一



- (一) 製茶ノ協定運賃ハ從來六弗五十仙ナリシヲ六月積以後八弗ニ引上タリ
  - (二) 棉花運賃百英斤一弗五十仙ヲ九月以後一弗七十五仙ニ引上ケタリ
  - (三) 蜜柑運賃ヲ十月二十八日以後七弗五十仙ヨリ十三弗ニ引上ケタリ
- 本年中ノ運賃率變動ヲ表示スレハ左ノ如シ

(一) 日本ヨリ北米太平洋沿岸行

品	命令		自由船及臨時船
	目	標準	
雜貨	噸	九弗	二月 弗
食料	同	八ク	五月 同
米	同	七弗五〇	七月 同
茶	同	八弗六月以後	十一月 同
眞田類	百封度	麥二弗眞田	同
眞田	噸	七弗五〇	同
磁器	噸	七弗五〇	同
雜貨	噸	九弗	二月 弗
食料	同	九ク	五月 同
米	同	九ク	七月 同
茶	同	三〇	十一月 同
眞田類	百封度	麥二弗眞田	同
眞田	噸	九ク	同
磁器	噸	九ク	同

(二) 日本ヨリ紐育行

品	目	標準	二月	五月	七月	十一月
雜貨	噸	一七〇志	一七〇志	一三〇志	一三〇志	一三〇志
雜貨	噸	一七〇志	一七〇志	一三〇志	一三〇志	一三〇志

(三) 北米太平洋沿岸ヨリ日本行

品	目	標準	命令船				自由船及臨時船			
			二月	五月	七月	十一月	二月	五月	七月	十一月
棉花	百封度	スタンダード ハイデンシタイ 一、七五弗	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	
銅板	噸	一〇弗	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	
鐵塊	噸	八弗	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	
鐵物	噸	八弗	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	
雜貨	噸	二〇弗	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	

(四) 紐育ヨリ日本行



品目	標準	二月	五月	七月	十一月
雜貨	噸	二〇	二五	同	同
鐵物	噸	二〇	同	上	上
雜貨	噸	同	同	上	上
鐵物	噸	同	同	上	上

第四 南米航路

本航路東岸線ノ荷況ヲ見ルニ舊臘以來一般荷主ハ運賃先安ヲ見越シテ手控シ新規註文極メテ稀ナル爲往航ハ頗ル不振ニ陥リタルカ復航ハ南阿羊毛出盛期ニ入り好況ヲ維持シタリ本航路ニ於テハ二月「ベノスアイレス」ニ勞働者ノ同盟罷工起リ荷役不能トナリ郵、商兩社船ニシテ一時五艘ノ停船ヲ見三月末一旦解決シタルモ本事件ニ對スル同國政府ノ態度不親切ナルモノアリトシ各船主協議ノ上斷然同國行荷物ノ引受ヲ中止スルコトトナリ出荷著シク減少セリ其後此決議ハ實行不能トナリ景況ノ見直レルニ際シ六月以來本邦船ハ再ヒ引受ヲ開始セルニ既ニ歐米船ノ南阿、南米方面ニ就航スルモノ増加シ歐米ヨリノ貨物ノ供給潤澤トナリシヲ以テ荷動キ一般ニ沈靜ニシテ一方内地生産費著シク膨脹シ輸出スルモ引合ハサルニ至レル爲メ蒐貨困難トナリ新嘉坡及古倫母行荷物ヲ積載シテ船腹ヲ充スノ狀況ニテ本年ヲ送レリ反之復航ハ「ブエノスアイレス」ヨリ伯刺西爾行穀類伯刺西爾ヨリ南阿行珈琲及南阿ヨリ日本揚羊毛ノ出貨九月以來殊ニ旺盛

ニシテ往航ニ比シ活氣ヲ呈シ南阿ヨリ日本行羊毛盛況ヲ呈シ九月以來滿船ノ好況ヲ呈セリ西岸線ハ東洋汽船會社ニ於テ東洋ト智利、秘露諸港トノ直通航路ヲ獨台セルカ其荷況ヲ見ルニ休戰後ノ不況ハ南米市場ニモ及ヒ取引一般ニ手控セラレ出荷乏シク殊ニ香港ヨリノ積荷減少シ運賃率モ嘗テハ八十二弗ヲ唱ヘシモ五月出帆ノ靜洋丸ヨリ雜貨三十五弗米三十弗ニ引下ラレ沈靜ノ狀態ヲ呈スルニ至リ復航硝石ハ相當出荷アリテ暫クハ百志ヲ維持シタルモ次第ニ下押トナリ四月以來七十志ニ引下ケラレ又日本積支那行貨物甚シク減少セルカ爲メ一般ニ不況ノ商狀ヲ持續セリ

本年中ノ東海岸線運賃率ノ變動ヲ示セハ左ノ如シ

イ、往航

品目	標準	二月	五月	七月	十一月
雜貨	噸	七五	七五	同	上
酸類	噸	五〇	五〇	同	上

ロ、復航



品目	標準	二月	五月	七月	十一月
骨	噸	一〇	同	上	上
キユーブラチヨウ	噸	一〇	同	上	上
羊毛	一封度	三	同	上	同

第五 濠洲航路

本航路往航ニ於テハ冬期ハ平常ニテモ本邦出貨ノ閑散期ナルニ見越輸入ニ基ク在荷莫大ナルヲ以テ既約品ノ取消頻繁ニシテ三月ノ回復季ニ入ルモ新規商談稀ナルニ拘ラス船舶ノ供給ハ社外船ノ配船提供船ノ歸還及外國船ノ復舊ノ爲メ過剩ヲ呈シ荷況思ハシカラサリシカ夏ニ入り回復ノ曙光ヲ認メ木材ノ積出増加セルモ輸出向商品ノ生産減少セルノミナラス物價ノ昂騰ト爲替相場ノ騰貴ノ爲メ市況不振ヲ繼續セリ九十兩月ハ「クリスマス」用品ニテ荷況幾分回復セシモ濠洲政府カ十一月三日産業保護ノ目的ヲ以テ多數貨物ノ輸入ヲ制限シ只外國品カ比較的高價ナル場合ニノミ輸入ヲ許可スルコトシタレハ十一月以來益々低調ヲ辿リ香港方面亦排日ノ影響ヲ受ケ出貨激減シ不況理ニ本年ヲ送レリ反之復航ハ新春以來小麥鐵等ノ積出夥シク三四月頃一時内地小麥市場沈靜ノ爲メ一般出荷ト共ニ減退セシカ夏季以來再ヒ小麥ノ積出激増シ一般原料

(一) 日本ヨリ濠洲行  
品及讓分羊毛ノ出荷亦増加シ社外船ノ就航多數ナルモ尙船腹ノ不足ヲ告ケ運賃率モ亦一般市場率ハ定期船率ノ二三ニ達シ從テ強調ヲ呈シタリ本航路運賃率ノ變動ヲ見ルニ左ノ如シ

品目	標準	命令				
		二月	七月	十一月	自由船	臨時船
雜貨	噸	五〇	二五	五〇	一五〇	二五
綿製品	噸	五〇	二五	五〇	一五〇	二五

(二) 濠洲ヨリ日本行

品目	標準	命令				
		二月	七月	十一月	自由船	臨時船
鉛	噸	三〇	同上	同上	六〇	七〇
小麥	噸	三〇	同上	同上	六〇	七〇
雜貨	噸	五〇	同上	同上	九〇	一〇〇

第六 印度航路

對印度貿易ハ戰時中頗ル促進セラレ一九一八—一九年度ノ同國貿易狀況ヲ見ルニ本邦品ハ輸出ノ一割二分



輸入ノ二割ヲ占ムルニ至レルカ昨年以來商況俄ニ一變シ在荷ノ多量ナルト共ニ商取引頗ル閑散トナレルイ  
 ミナラス外國船舶ニ對スル同國政府ノ管理振頗ル峻嚴ヲ極メ我海運業者ノ蒙リタル不利不便尠少ナリトセ  
 ス甲谷陀線ニ於テハ往航ハ中間港及奧行共ニ不振ナルニ加ヘテ社外船ノ配船多キ爲メ不況ヲ續ケタルカ五  
 月以降在荷漸ク減少シテ需要喚起セラレ殊ニ夏以來對印爲替ノ低落ノ爲メ一般輸出貿易活躍シ新嘉坡香港  
 行ハ日貨排斥ノ影響ヲ蒙リタルモ其他ハ雜貨硝子器、燐寸、綿絲布ノ積出夥シカリシカ十月以來在貨ノ多量  
 ト英國品輸入豫想トニ因リ新商談ノ成立少ク荷動キ稍閑散トナレリ反之復航ハ初春以來不況裡ニ半歲ヲ送  
 リシカ六月以降契約銑鐵滿俺其他ノ積出増加シ好況裡ニ本年ヲ終レリ  
 孟買線ニ在リテハ同様往航不振ニシテ一時石炭ヲ積載スルモノスラ生シタルカ四月以來稍回復シ對印爲替  
 相場ノ暴落ニ基ク綿絲布、燐寸、硝子器、陶器、麥酒、雜貨ノ取引股賑ヲ極メ十月上旬阪神地方ノ滯貨ハ  
 千噸ニ及ヒ印度内地不作ノ爲メ上海ヨリ孟買行豆類ノ積出亦多量トナリ中間港ニモ出荷増加シ續テ冬枯季  
 ニ入り社外船及郵商船ノ臨時船頻發セルモ好況ヲ維持セリ復航ニ在テハ綿花ノ出荷夥ク船腹不足ヲ告ケル  
 ノ盛況ナリシカ三月中旬以後印度南部飢饉ニ基ク糧食大輸送ノ爲孟買ノ綿花輸送滯滯シ一方米棉安ト「カ  
 ウンシルビル」騰貴ノ爲メ日本ヨリノ新規注文阻害セラレ六月以來再ヒ印棉割安ノ爲メ支那行綿絲ト共ニ  
 出荷旺盛トナリ十二月ノ如キ出貨二十五萬俵ニ對シ船腹二十萬俵ニ過キサルニ至リ好況裡ニ本年ヲ終レリ  
 本航路運賃率ノ變動ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 日本ヨリ甲谷陀行

品目	標準	二月	五月	七月	十月	十一月
雜貨	噸	六〇	四〇	同上	同上	同上
硝子	噸	六〇	四〇	同上	同上	同上
陶器	噸	五五	三五	同上	同上	同上
燐寸	噸	五五	三五	同上	同上	同上

(二) 日本ヨリ孟買行

品目	標準	二月	五月	七月	十月	十一月
雜貨	噸	六五	四五	同上	同上	同上
硝子	噸	六〇	四〇	同上	同上	同上
陶器	噸	六〇	四〇	同上	同上	同上
燐寸	噸	六〇	四〇	同上	同上	同上



(三) 甲谷陀ヨリ日本行

品目	標準	二月	五月	七月	十一月
鉄	噸	五	四	四	同上
綿	噸	六	五	同上	三五
麻	噸	三	九	七	同上
雜貨	噸	一	一	八	同上

(四) 孟買ヨリ日本行

品目	標準	二月	五月	七月	十一月
綿	噸	五	七	七	三五
花	噸	五	七	七	三五

第七 南洋航路

新年ニ入ルモ本邦爪哇間荷況回復ノ徴ナク荷主ハ運賃ノ先安ヲ見越シ手控セルノミナラス蘭買米西買米ノ輸出禁止セラレシト瓜哇糖ノ出廻リ少キ爲メ甚シキ打撃ヲ受ケ二月沈靜ノ極ニ入りタルカ南洋郵船カ三月

萬里丸ヨリ神戸爪哇間雜貨運賃ヲ十八圓ニ引下ケテ以來出荷漸ク回復ノ兆ヲ示セリ然レトモ社外船ノ瓜哇糖積取ノ爲メ配船セラル、モノ増加セル爲メ自ラ運賃ヲ低落セシメ五月更ニ十四圓ニ引下ケタルモ在蘭領東印度、支那商ノ日貨排斥ノ影響ヲ受ケ加フルニ瓜哇糖亦英佛ヨリノ大注文ニ基キ強氣配ニテ新商談阻碍セラレ益々不況ヲ重ネ郵船會社ノ如キ八月ノ本邦出帆船ノ差建ヲ見合セタル程ナリシカ秋ニ入ルト共ニ在貨漸ク拂底ヲ告ケ期待サレタル歐洲品ノ入荷モ抄々シカラサルニ至リ本邦品ノ需要ヲ喚起シ「セメント」燐寸其他各種商品ノ輸出漸増セルモ好況ヲ見スシテ本年ヲ終レリ

本航路運賃ニ付テハ一月郵、商兩社協議ノ上本邦爪哇間約二割三分ノ引下ヲ行ヒタルカ二月南洋郵船ノ運賃低下ニ促進セラレ爪哇支日線、南洋郵船、大阪商船及郵船會社ノ間ニ運賃協定成立セリ

本年中ノ運賃率ノ變動ヲ示セハ左ノ如シ

日本ヨリ爪哇行

品目	標準	二月	五月	七月	十一月
雜貨	噸	二〇	一五	一三	同上
陶磁器	噸	二〇	一五	一三	同上
硝子器	噸	二〇	一四	一三	同上



第三節 外國船來航ノ狀況

戰時中ニ於テハ各國共ニ自國船舶ノ運航ニ嚴重ナル制限ヲ加ヘタルヲ以テ其自由ナル活動ヲ阻止セラレ本邦ニ來航スル外國船舶激減シタルカ休戰條の成立以來漸次復舊シ一時本邦海運業ヲ威嚇セントスルノ狀ヲ示シタルモ尙其數ハ戰前ニ比シ遙ニ少ク試ミニ本年中ニ本邦諸港ヲ出帆セル外國船舶數ヲ前二箇年分ト比較スレハ左ノ如シ

本邦船舶 (外國貿易從事船)	英國	北米	和蘭	佛國	露國
大正六年	七四七六	一八二〇	六六六	二一〇	五三三
大正七年	一四二九九	五二五〇	二六〇七一	四七〇四三	七五〇八六
大正八年	八七五	一二六	三三〇	一三四	四二二
大正八年	一四七二七	三四八四三	一三三三三	三七九五六	五二九六三
大正八年	一〇六八一	一七六八	八二九	三五〇	二四〇
大正八年	一七二五九七	五八七八五〇	三四八七三九	一八六三九	二九五八四

支那	諾威	總計
大正六年	六九	九八六
大正七年	二〇九三三	一九四四九
大正八年	三七	一〇〇九
大正八年	一一四一〇三	一八二二四
大正八年	四二	二四六九
大正八年	七八二〇七	二三〇八二

即大正八年ハ之ヲ前年ニ比スレハ隻數ニ於テ五百七十二隻噸數ニ於テ實ニ二百四十萬噸ヲ増加スト雖モ之ヲ大正六年ニ比スレハ隻數ニ於テ二十二隻ノ減少ヲ示シ噸數ニ於テ六十五萬噸ヲ増加セルニ過キスシテ一般船主カ恐怖セル外國船來航ノ復舊ハ未タ聲ヲ大ニスルニ足ラサルカ如シ然レトモ更ニ來航外國船ヲ國籍別ニ觀察スルニ英米兩國船ノ來航激増シ平均一箇月英國船六十九隻、米國船二十九隻ニ達シ之ヲ前年ニ於テ毎月英國船二十六隻米國船十一隻ヲ迎フルニ過キサリシニ比スレハ共ニ二倍半ノ増加ヲ示セリ

惟フニ英國ニ於テハ尙解僱セラレサル徵發船ノ存スルノミナラス運賃制限、船舶管理依然繼續セラレ食料品輸送ニ全力ヲ傾注シ自由船舶多カラサルヲ以テ本邦ニ來航スルモノ比較的少キ筈ナルニ拘ラス此ノ如ク漸増ノ趨勢ヲ示セル所以ノモノハ英國カ戰時中喪失セル東洋海上權ノ回復ニ熱心ナルノ致ス所ト謂ハサルヘカラス

米國亦東洋ノ航通ニ付テハ南米方面ト共ニ最モ留意シ廣大ナル東洋市場ニ活躍スルニハ自國船舶ノ航路維持ヲ必要ナリトシ太平洋航路ニ付著々劃策實行スルノミナラス揚子江航路ヲモ經營スルノ計劃ヲ樹ツル等



英米兩國船ノ東洋方面ニ於ケル活躍ハ將來益々盛ナルヘキモノト豫想セサルヘカラス此等外國船カ本邦ニ於テ積取ル貨物數量ハ尙僅少ニ過キサレトモ到所ニ過度ノ運賃切崩ヲ行ヒ些少ノ犠牲ヲ拂ヒテ運賃市場ヲ攪亂シ本邦船主ヲシテ甚シキ苦境ニ立タシムルモノノ如シ然レトモ本邦船船ハ既ニ各所ニ侵シ難キ地步ヲ確立セルモノ多ク商船會社ノ歐航同盟加入、郵船會社ノ紐育協定加盟及太平洋海運會社ノ濠洲同盟加入ノ如キ本邦海運業ノ實力ヲ示シテ餘アリ、今年中外國船ノ橫濱又ハ神戸ヲ出帆セルモノヲ航路別ニ示ストキハ左ノ如シ

月	一	二	三	四	五	六	七
歐洲航路	六	七	八	一〇	五	五	八
北米航路	六	七	六	八	五	六	二
印度航路	一	二	一	一	一	二	六
南洋航路	一	三	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一

月	八	九	十	十	十	計
一月	九	六	二	二	一〇〇	一〇〇
二月	二	〇	〇	〇	二	二
三月	二	〇	〇	〇	三	三
四月	二	〇	〇	〇	三	三
五月	二	〇	〇	〇	二	二
六月	二	〇	〇	〇	二	二
七月	二	〇	〇	〇	二	二
八月	二	〇	〇	〇	二	二
九月	二	〇	〇	〇	二	二
十月	二	〇	〇	〇	二	二
十一月	二	〇	〇	〇	二	二
十二月	二	〇	〇	〇	二	二
計	五	五	四	三	三	三

自大正八年一月至同年十月橫濱又ハ神戸ヨリ各方面向航シタル外國船數調  
一、歐洲航路

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
青 筒 線	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ローヤル、メール	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ペン、ライオン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ソシエタ、マリアタイム、イタリヤナ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
露 國 政 府	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一











歐洲行本邦出荷ハ相當多量ナルヲ以テ郵船會社ニ於テ毎月臨時船ヲ配スルノミナラス大阪商船會社又北歐線、南歐線十艘ノ船舶ヲ以テ月一回ノ定期ヲ履行シ本邦商權ノ擴張ニ資シツツアルヲ見ル尤モ英國諸會社ニ於テハ或ハ數會社合併シ或ハ他社ノ航路ヲ買收シ以テ絶大ノ實力ヲ擁シテ東洋方面ニ活躍スルノ傾向顯著ナルカ故ニ歐洲食料品供給問題解決シ船腹ニ餘剩ヲ見ルニ至ラハ戰前ノ狀況ニ復スルニ至ルノミナラス却テ之ヲ凌駕スルニ至ルヘク現ニ十月以來ハ上半期ノ二倍ニ達セリ

(一) 北米航路ニ於テハ太平洋郵船加奈陀太平洋汽船青筒線ノ殆ト戰前ニ復舊セルノミナラス船舶院「ロバートダラー」支那郵船爪哇支那日本線等ノ多數船舶ノ來航ヲ見一箇月平均八・七五艘ニ及ヒ之ヲ戰前ノ八・五艘ニ比スルモ既ニ凌駕シ早クモ本邦船舶ヲ脅威スルヲ見殊ニ船舶院ハ「アドミラルライン」ヲシテ其所有船舶ノ經營ニ當ラシメ極メテ低廉ノ賃率ニテ運航ニ從事シ十月ニ於テ東洋航路ニ向ケラレタル船舶院定期船ヲ見ルニ二十隻重量噸七萬五千噸ニ及ヘルヲ以テ他社ノ船舶ハ船舶院率ニ牽制セラレタリ本邦船ニ於テモ郵商兩社カ定期船ノ外絶ヘス臨時船ヲ差建ツルノミナラス太平洋海運亦約月二回ノ定期航路ヲ經營セルカ社外船ノ本航路ニ就航セルモノハ低率ノ運賃ニ堪ヘス其大半ヲ舉ケテ上半期歐洲航路ニ轉スルニ至レリ

(二) 印度航路ニ於テハ孟買線ノ彼阿未タ充分復舊スルニ至ラス甲谷陀線ノ英印汽船、印度支那航業ハ漸ク戰前ニ復セントスル狀況ニシテ依然本邦船舶ハ優勢ナルモ英國ニ於テハ本航路ノ航權回復ニ全力ヲ傾倒シ休戰條約成立後船舶管理ノ必要ノ程度著シク減少シタル後ニ於テモ或ハ印度爪哇航路砂糖積取ニ干容シ或

ハ南阿行荷物積取ヲ制限スル等種々ノ制限ヲ外國船舶ニ加ヘ專ラ英國船ヲ保護セムトスル嫌ナシトセズ

(四) 南洋航路ニ於テハ和蘭ノ爪哇支那日本線ノ月二三回ノ定期ヲ維持セルノ外近時「グロスマン、メライムシツプ」、「フアーネスウキージ」等ノ來航ヲ見ルモ「ネザーランド」及「ゴッダードムロイド」ノ寄港ハ豫期ノ如ク多カラスシテ和蘭船ハ主ニ爪哇歐洲線ノ回復ニ從事シ本邦ノ郵船、商船、南洋郵船及太平洋海運等ノ活躍ニ委セララルルノ觀アリ

### 第四節 不定期船ノ狀況

#### 第一 概況

戰時中ニ於ケル本邦海運ノ發展就中社外船ノ活躍ハ殊ニ顯著ニシテ其實力亦漸ク充實セララルルニ至リタリト雖モ元來定期船ノ如ク其地歩確實ナラヌ多クハ貨船ヲ主トスルカ故ニ海運界ノ景況ノ良否ハ最モ鋭敏ニ波動シ來リ休戰條約成立以來ノ急轉直下ノ不況ハ社外船主ヲシテ甚シク不利ナル地位ニ立タシメ賣船貸船共ニ困難トナリタル結果炭價ノ高値ナル爲メ繫船スル者ヲ見ルニ至レリ一方社船側又ハ大手筋ニシテ備船料ノ先安ヲ見越シテ期限到來ト共ニ解約ヲ爲スモノ多ク加フルニ新造船ノ續々進水スルアリ提供船ノ相次テ歸還スルアリテ益々船腹ノ過剩ヲ告クルニ拘ラス各方面共出貨ニ乏シク近海方面ハ例年一、二月ハ閑散期ナルコトトテ市場不振ヲ極メ更ニ英米船ノ運賃切崩ハ早クモ社外船ニ致命傷ヲ與ヘ船價ノ低落ハ金融ノ



引締貸出ノ手控ヲ馴致シ社外船主ノ困難一方ナラスシテ軍用船ノ徵發モ市場ヲ救済スルニ足ラス一時ブレミアム付ニテ募集セル汽船會社株券ニシテ一朝ニシテ數圓ニ暴落セルモノヲモ生シタルカ社外船主ノ多クハ戰時中ニ獲得セル莫大ノ利得ヲ以テ或ハ特殊ノ準備金ヲ積立テ或ハ多額ノ船價償却ヲ行ヒ今日ニ備ヘタルヲ以テ豫期セラレタルカ如キ慘狀ヲ呈スルニ至ラスシテ經過スルヲ得タリ是ヨリ先政府當局ハ海運界カ漸次不況ニ陥リ本邦ニ於ケル船腹ニモ少カラス餘裕ヲ生シ運賃又從テ低落ノ趨勢ヲ促進セラレタルヲ以テ船舶管理令ノ運用ヲ少カラス緩和シ其外國諸港間ノ航行ハ殆ント之ヲ制限スルコトナク事實上外國諸港間ノ航行ニノミ從事スルモノヲ除クノ外ハ其本邦ヲ發航シ又ハ本邦ニ歸著スル航海ヲ行フモノニアリテハ總テ自由ニ之カ運用ヲ爲サシムルコトトセリ

茲ニ於テ社外船ノ活動ハ頗ル自由トナリ遠洋航路ニ配船セラルルモノ漸増セシカ北米方面先ツ提供船ノ歸還ト船舶院船ノ就航トノ爲メ苦境ニ陥リ南洋濠洲及印度方面亦荷況不振ニシテ運賃暴落シ不況ヲ極メタルカ、四五月以來歐洲向食料品輸送ノ爲同方面船腹ノ需要激増シ社外船ハ大舉シテ北米航路ヨリ歐洲航路ニ轉航シ爲ニ本邦遠洋航路就航船ノ大半ハ歐洲方面ニ配船セラルルニ至レリ尙海運界一般ニ動搖シ一時甚シク不安ヲ感シタルヲ以テ五月頃當時新ニ建造セラレタル船舶並ニ建造中ノ船舶ヲシテ可成海外ニ散逸セシメ且我海運ヲシテ戰後來ルヘキ世界的競争ニ堪ヘシムルノ目的ヲ以テ當業者間ニ各自ノ所有船舶ヲ提供シテ有力ナル一大會社組織ト爲サントスルノ議熟シ七月國際汽船會社ノ設立ヲ見ルニ至リ公稱資本一億圓

重量噸二十五萬噸ノ優秀船舶ヲ擁シ本邦海運界ニ一大勢力ヲ確立セルハ慶賀スヘキコトニシテ當局亦資金ノ融通其他ニ付キ援助ヲ與ヘタリ

總噸數千噸以上ノ本邦汽船配船調(各月末現在)

	二月		五月		七月		十月		十二月	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
一、近海	一八三	八〇七四	二二一	四六六五五	二二二	四六六〇八	二二六	四五四八八	一六六	四〇三三三
支那沿海州方面ヲ運航スルモノ(内地沿岸、揚子江ヲ除ク)										
二、米國航路	九〇	五四八四九	七六	五〇〇七二	七七	四八四二七	六四	四三三〇九	五九	三六六〇九
日本、印度、海峽地南洋方面ヨリ北米及南米方面へ運航スルモノ										
三、蘇士以東	一〇八	三四五九	一〇二	三四一九七	八九	二六、六五	八〇	二四七七一	九七	三四四八四
蘇士、坡西土、印度、海峽地、南洋方面ニ運航スルモノ										
四、歐洲	六二	二七、六三	六三	三三、四二	六三	三三、四二	六三	三三、四二	六三	三三、四二



歐洲(地中海ヲ含ム)方面ニ運航スルモノ

五、其 イ、内地沿岸 他	一五	二七、九五	一七	三三、九〇	一五	二七、〇六	一六	二七、〇六	一九	三三、二六
ロ、楊子江	三	三〇、四五	三	三〇、四五	三	三〇、四五	二	三〇、四五	三	三〇、四五
ハ、濠洲	二	四三、七〇	三	八三、九八	二	九四、五七	二	四四、五六	二〇	七二、〇九
ニ、南 阿	一	六〇、七一								

前表ニ於テ見ルカ如ク歐洲航路ニ配船セラルルモノ著シク増加シ七月以來社外大型船百餘萬噸ノ六割ハ歐洲方面ニ振向ケラレタルノ盛況ヲ呈シ九月末郵船及商船ノ同方面ニ配船セラルルモノ三十六艘二十二萬六千噸ナルニ對シ社外船九十六艘四十萬七千噸ヲ算シタリ而シテ右六十萬噸ノ歐航就航船中年内ニ解僱トナルモノ相當多カリシモ尙同方面運賃割高ナル爲メ解約船ノ大半ハ大西洋ニ於テ消化セラレタルカ晚秋英米ニ於テ燃料炭ヲ得ルコト困難トナリ爲替關係ノ圓滑ナラサルコトハ著シク貿易ヲ阻害シ歐洲方面ノ海運市況モ惡化スルニ至レリ

第二 運賃備船料

從テ運賃市況ヲ見ルニ新年ニ入りテ更ニ凋落ヲ重ネ近海方面船腹ノ過剩ヨリ二月下旬門司濱石炭運賃三圓六七十錢ニ低落シ遠洋方面ニ於テモ北米濠洲及印度向出貨激減シ歐洲亦運賃先安ヲ見越シテ出漕リ各方面

共沈靜ヲ極メ三月備船料ノ變動ヲ見ルニ大型七圓五十錢乃至十圓小型七圓乃至七圓五十錢ニ暴落シ而モ前途未定ノ懸念ヨリ長期ノ手合無ク斯界混亂ヲ呈シ回復ノ機來ルヘシトモ見エス之ヲ休戦前後ノ門司濱運賃八圓大型備船料三十圓ニ比スルモノ二分ノ一乃至三分ノ一ニ下落シ更ニ之ヲ戰時中ノ好況時代ニ比較スルトキハ其轉移ノ甚シキニ驚嘆セサルヲ得然ルニ四月ニ入り市況稍見直リ歐洲向食料輸送船腹ノ需要劇增シ北米亦出廻リ次第ニ増加シ本邦船ニシテ大西洋航船ニ從事スルモノ簇出シ同方面ヨリノ引合ヲ見ルニ至リ對外備船五月迄ハ八隻二三萬噸ニ過キサリシモノ九月以後ハ二三艘十二三萬噸ニ達シ夏ヨリ秋ニ亘リ再ヒ盛況ヲ呈スルニ至リタルモ遂ニ戰時中ノ如キ亂調子ヲ演スルニ至ラス最高潮ト雖モ大型船二十圓歐洲航路二十七圓ニ過キスシテ歐洲ヨリノ引合モ大型六ヶ月ニテ四十五志前後トス此ノ如クシテ強調ヲ持續シ十月ニ及ヘルモ歐洲方面特殊貨物輸送ノ一段落ヲ告ケ交換船ノ近海荷物ヲ破格ノ安値ニテ積取ルニ及ヒ備船料句ヲ追ウテ漸落趨勢ヲ辿リ大型船十四圓ヲ唱フルノ軟調ヲ呈シ「チエック」軍及獨逸俘虜輸送船ノ成約等ニテ十一月中旬迄ハ幾分活況ヲ見タルモ同月下旬ヨリ冬枯季節ニ入り殊ニ米國石炭坑夫ノ同盟罷業ハ一時燃料炭ノ供給ヲ不能ナラシメ本邦船舶ノ米人筋ニ備船セラレタルモノニシテ契約不履行ノ紛争ヲ醸セルモノアリ歐洲航路亦一般ニ沈靜トナリ遠洋近海各方面共荷動キ閑散ニシテ大手筋ノ引合無ク成約ノ多クハ短期ニシテ斯界鈍狀裡ニ本年ヲ終レリ

今年年中ノ標準運賃及備船料ノ相場ヲ毎月別ニ示セハ左ノ如シ

一 石炭運賃







運賃市況前述ノ如クナルカ故ニ一月來船舶ノ賣買セラルルモノ殆ト絶無トナリ七月ニ至ル迄ハ隔月約一艘

第三 賣船狀況

十	十	十	九	八	七	六	五	四	三
二	一								
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
一四〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一九〇〇	二〇〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	七五〇
一〇〇	一〇〇	一三〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一三〇〇	九〇〇	九〇〇	七五〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一〇〇	八〇〇	七五〇	七五〇
路	航	洲	歐				路	航	
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇

三 備 船 料

二	一								
月	月								
一〇〇〇	一七〇〇	二九〇〇	二六〇〇						
九〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一八〇〇						
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇						
界世		歐	洲	界	航	航	路	路	及
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇







(ロ) 大正八年於ケル古船買買價格

船名	製造年	重量噸數	契約期	受渡期	重量他數一噸當リ賣買價格
井手丸	一八八九年	六、六〇〇	八年七月	八年八月	二三一圓
平和丸	一八九〇年	二、九〇〇	同月	直	二〇〇圓
第二小樽丸	一八八九年	四、一〇〇	八月	直	一八〇圓
蔚山丸	一八八八年	三、六〇〇	同月	十一月	一八〇圓
新竹丸	一八九〇年	四、三〇〇	同月	(九年)二月	二〇〇圓
阜月丸	一八八七年	三、二〇〇	九月	八年九月	一四〇圓
第二千代田丸	一八八九年	一、八〇〇	同月	十一月	一七二圓
愛國丸	一八八九年	四、七二〇	十一月	倫敦渡	一〇〇圓
武陽丸	一八九〇年	四、二〇〇	同月	十二月	二〇〇圓
					十一月

(ハ) 船舶輸出表

大正	總噸數千噸以下	總噸數千噸以上	合	計
四年	一、一九二	二	六、四五	七、四六
五年	一、二四五	一〇	三、七六二	四、八八六
六年	九八五	三五	一、八〇三	一、九二七
七年	七	二九	一、五〇二	一、五〇八
八年	八四五	一八	五、二七二	六、〇九七

第五節 本邦造船業ノ狀況 附新造船々價

休戦後海運界急轉直下ノ趨勢ハ直ニ造船業ニ影響ヲ及ホシ戰時中造船界ノ好況ニ乘シ簇出セル中小造船所ニ於テハ船價暴落ノ結果註文者ヨリ資金及材料ノ供給杜絶セルノミナラス解約又ハ價格ノ値下ニ關スル紛議續出シタルヲ以テ造船工事ヲ中止シ職工ヲ解僱スルノ己ムナキニ至リ造船材料ヲ投資シ工場閉鎖ヲ斷行セルモノ多數生シ殊ニ戰時中船腹窮迫ノ際一時的需要ニ由リ勃興セル木船造船所ハ最モ急速ニ打撃ヲ蒙リ殆ト全滅ノ姿ニシテ今年中ニ於テ進水シタル一千噸以上ノ大型木造船ハ僅ニ二隻二千三百噸ニ過キス然レ



トモ基礎鞏固ナル大造船所ハ既約ノ注文船、仕入船、日米船鐵交換船、海軍艦艇等多數ノ工事ヲ有シ其進捗ニ努メ一時懸念セラレタル材料ノ供給難モ製鐵所ノ民間造船所供給額ハ前年ノ六千三百瓦噸ヨリ四千八百三十瓦噸ニ減少セルモ春以來船鐵交換材料ノ續々著荷スルアリ英米ノ輸出解禁亦鐵材ノ輸入ヲ容易ナラシメタルヲ以テ工事ニ支障無キヲ得一方外國船價ノ割高ハ新規注文ノ増加ヲ促進シ海運界景況ノ回復ハ仕入船ノ見込ヲ立ラシメ交換船ノ建造ト共ニ多忙ヲ極メ本年中ニ於ケル百噸以上ノ進水船舶ハ左ノ如ク三百五十四隻六十八萬二千〇七十八噸(總)ニ達シ其中一千噸以上ノ船舶進水數ニ付テ見ルモ百三十六隻總噸數六十二萬一千五百十三噸ヲ算シ前年ニ比シ隻數ニ於テハ五十三隻ヲ減シタルモ噸數ニ於テハ大型船増加ノ結果十萬三千噸ヲ増加スルノ好況裡ニ本年ヲ終レリ

大正八年中總噸數百噸以上船舶進水表

六	五	四	三	二	一
月	月	月	月	月	月
二五	三一	四二	五二	四七	三四
噸	噸	噸	噸	噸	噸
六、五五〇	五七、六四五	五九、三二〇	七七、七八九	四六、三〇五	四三、〇二三

合	十	十	十	九	八	七
計	月	月	月	月	月	月
三五四	二〇	二六	一七	一八	一七	二五
隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻
六八二、〇七八	六七、七五四	一〇〇、五〇一	五〇、四三三	四三、六三七	二五、二九三	四八、八二八

二、大正八年中總噸數一千噸以上ノ船舶及船鐵交換船進水表

四	三	二	一
月	月	月	月
四	一七	三	四
隻	隻	隻	隻
七	〇	六	四
噸	噸	噸	噸
〇	〇	〇	〇
二	一七	九	八
噸	噸	噸	噸
〇	〇	〇	〇
四七	七	〇	七
噸	噸	噸	噸
四七	七	〇	七
噸	噸	噸	噸











### 第六節 船員ノ狀況

時局以來我海運界ノ活躍ニ伴ヒ本邦船舶カ遠ク歐米諸港迄其ノ航路ヲ擴張シタルノミナラス其ノ噸數亦激増シタルヲ以テ一時ニ多數船員ヲ必要トスルニ至レリ然ルニ元來船員ハ最下級ノ者ト雖モ或程度ノ熟練ヲ要シ高級船員ニ至リテハ專門ノ學術技能ヲ要スルニ由リ急激ニ其ノ供給ヲ増加スルコト能ハス爲ニ船員就中高級船員不足ノ聲次第ニ高ク本年夏以來動モスレハ船主間ニ船員ノ爭奪行ハルルニ至レリ

元來海員トナルニハ船員手帖ヲ受有スルコトヲ要シ又船舶職員トナルニハ海技免狀ヲ要ス而シテ船員手帖及海技免狀ヲ有スルモノハ左表ノ通りニシテ其數ニ於テハ船舶隻數ニ比シ敢テ不足ヲ生セサル譯ナレトモ船員手帖ノ受有者中ニハ現ニ海員ノ職ニ在ラサルモノ頗ル多ク又海技免狀受有者中ニモ陸上勤務ヲ爲スモノアルノミナラス船舶職員ニハ各種ノ階級アリテ夫々其ノ階級ニ適應スル免狀ヲ要スルヲ以テ自然各種免狀間ニ過不足ノ生スルコトアルハ免カレサル所ナリ

海技免狀受有者	船員手帖受有者
五年來 三四、三二七	二五六、九五〇
六年來 三六、八九七	二七三、四三八
七年來 三九、二三一	三〇〇、一四四
八年來 四一、三九二	約三二七、六二三

是ヲ以テ政府當局ニ於テハ之カ對策トシテ先テ高級海員ニ對スル試驗制度ノ改正等ニ付次ノ手段ヲ執リタリ

- 一、甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長、一等機關士試驗ニ於テ直接運航ニ關係ナキ科目ヲ當分省略シタリ
- 二、逓信大臣ノ充當ト認メタル甲種商船學校、水産講習所等ノ出身者ニ對シテハ甲種二等運轉士試驗、一等機關士試驗等卒業後最初ニ申請シ得ヘキ試驗ニ限リ口述試驗ノミヲ施行スルコトトシ筆記試驗ヲ省略シタリ
- 三、逓信大臣ノ充當ト認メタル甲種商船學校ニ於テ規定ノ實習ヲ了リ卒業シタル後更ニ遠洋航路又ハ近海航路一千噸以上ノ船舶ニ乘リ組ミ一年以上運轉士又ハ機關士トシテ執職シタル履歷ヲ有スル者ニハ當分ノ内無試験ニテ甲種二等運轉士又ハ一等機關士ノ免狀ヲ授與スルノ途ヲ開キタリ
- 四、近海航路及沿海航路五百噸未満ノ汽船ニ在リテハ一等機關士及二等機關士免狀ハ各下級ノ免狀ヲ以テ之ニ代用シ得ルノ途ヲ開キタリ
- 五、筆記試験ニ合格シ口述試験ニ不合格ナリシ者ニ對シ同一管海官廳ニ於ケル定期試験ヲ受クル場合ニハ六箇月間筆記試験合格ノ效力ヲ認ムルコトトシタリ
- 六、火夫トシテ執務シタル履歷ハ機關士ノ受験履歷トシテ採用セザリシモ二等機關士ノ受験履歷中二年ハ



火夫ノ履歴三年ヲ以テ代用シ得ルノ途ヲ開キタリ  
 七、官立商船學校ニ於ケル修業年限ハ從來甲板部機關部共各五箇年ナリシヲ何レモ四箇年半ニ短縮シテ卒業期ヲ早ムルコトトシタリ

以上試験制度ノ改正ニ依リ船舶職員試験受験者及合格者ノ數ハ著シク増加シ船舶職員ノ補充上大ニ效果アリタルモ爾來船舶激増ノ趨勢ハ依然タルヲ以テ一面高級海員ノ短期養成ヲ促進セシムルト共ニ海技免狀代用ノ範圍ヲ擴張シ船舶職員ノ需給關係ヲ圓滑ナラシムコトヲ期シ船舶職員法關係法令ノ改正ニ付更ニ考量中ナリ次ニ下級般員ニ付テハ時局中陸上ニ於ケル各種産業ノ勃興ニ伴ヒ海上勞動志望者著シク減シタルノミナラス下船轉業スル者亦多ク一時補充難ヲ訴フル聲喧シカリキ政府ハ夙ニ下級海員養成ノ必要ヲ認め日本海員救濟會ニ對シ年額三萬圓ノ補助金ヲ支給シ毎年一千名以上ノ水火夫ヲ養成セシメタルカ本年中間ニ於ケル海員養成狀況ヲ見ルニ左ノ如クニシテ成績大ニ見ルヘキモノアリ

- 養成水火夫採用人員 (十二月末迄) 四、八〇〇
- 同 成業人員 (同) 二、〇二九
- 高等海員養成所入學者 (同) 六三二
- 同 卒業者 (同) 三二一
- 各船舶ニ供給シタル海員數 (同) 一、二、四七二

又船主側ニ於テモ船員ノ引留又ハ募集ニ關シ大ニ考慮スル所アリ一般ニ給料手當ヲ増加スル等待遇ノ改善ニ努メタル結果本年ニ入リテハ其不足ヲ告クルコト高等海員ニ對スル程甚シカラス從ツテ之カ補充ニ著シク困難ヲ感セサルノ實況ナリ

然レトモ近時世界ノ風潮タル勞動運動ハ海員ニモ波及シ團結シテ勤務ノ輕減待遇ノ向上ヲ圖ルニ至リ既ニ十月神戸ニ於ケル海員團體聯合シテ増給運動ヲ開始シタルヲ以テ各船主ハ給料手當ノ増額ヲ行ヒタリ今日本郵船大阪商船及東洋汽船ノ三社ヲ通シ最近ノ給料ヲ見ルニ左ノ如シ

船	長	最高	最低
一等運轉士	六〇五	三五〇	二二三
二等運轉士	一九三	一五〇	一〇〇
三等運轉士	一六〇	一〇〇	八五
水夫長及火夫長	一三〇	八五	五七
大工	一一〇	五七	六〇
舵夫及油差	九五	六〇	四四
水夫	八〇	四四	



火 夫	八〇	五〇
石 炭 夫	五〇	四〇

第七節 戰時海上保險ノ狀況

休戰條約成立以來潛航艇ノ脅威全ク已ミ本邦船舶ノ之カ災害ヲ受クルモノ其跡ヲ絶テ從テ本年中ニ於テ政府ノ賠償ヲ見サルニ至リタルヲ以テ戰時危險ノ激減ニ願ミ英國政府率及ロイド率ヲ參酌シテ政府ハ一月二十日以後保險料率ノ引下ヲナシ危險區域ト認メラルル北海ヲ經由スル航路ニ付テハ保險料率ヲ二十錢トシ北海ヲ除キタル英國沿海及地中海ヲ經由スル航路ニ付テハ十錢トシ英國沿海及地中海以外ノ地域ニ付テハ危險比較的ニ尠シト認メラルルヲ以テ總テ之ヲ五錢トシ尙期間保險ニ付テモ保險料率ヲ適當ニ低下スルト共ニ海運界凋落ニ依ル船價ノ低落ハ曩ニ告示セル引受保險金額ト著シキ懸隔ヲ生スルニ至リタルヲ以テ市場價格ト權衡ヲ保ツコトニ留意シ二分ノ一ニ低下シタリ

汽 船 總噸數一噸當最高保險金額

進水後五年未滿	三 百 圓
進水後五年以上十年未滿	二百七十圓
進水後十年以上十五年未滿	二百五十圓
進水後十五年以上二十年未滿	二百二十五圓

進水後二十年以上三十年未滿	百 八 十 圓
進水後三十年以上四十年未滿	百 三 十 五 圓

此ノ如クシテ現在モ再保險官營ノ制度存シ荷爲替等ノ關係上契約ヲナスモノ多キモ漸ク其ノ必要ヲ減スルニ至リタルカ近時北海方面ノ敷設水雷ノ被害稍多キタメ海外ニ於テモ此方面ノ保險料率ノ引上ヲ見ルニ至レル程ナレハ諸外國ニ於テ多クハ其制度ノ實行ヲ見サルニ至リタルモ本邦ニ於テハ尙之ヲ存シタリ



145  
131



141  
131



終